

# さいたま市の食育取組状況

平成29年度

さいたま市食育推進協議会

## 「さいたま市の食育取組状況《平成29年度》」について

本冊子は、さいたま市の各部局及び各種食育関係団体における食育に関する取組を把握するために、さいたま市食育推進協議会、さいたま市食育推進担当者会議にて取りまとめた資料を基に、平成20年度より作成を開始し、今回で第10号となります。

平成29年度は、「『食文化や地の物を伝え合い』食べる」を重点目標とし、関係団体をはじめ、地域で積極的に活動を展開している市民の方々と食育の取組を推進してきました。

### 【さいたま市食育推進協議会】

第1回 平成29年 5月25日

第2回 平成29年 8月31日

第3回 平成30年 1月25日

### 【さいたま市食育推進担当者会議】

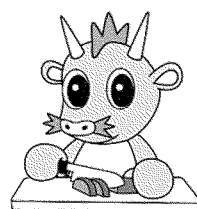
第1回 平成29年 5月 9日

第2回 平成29年 8月 8日

第3回 平成30年 1月19日

「人間が生きていく上で欠かせない大切な“食”について、正しい知識をもち、考え、実践し、伝えていくための取組」について、さいたま市の食育を推進していくための資料として、ご活用ください。

さいたま市保健福祉局保健部健康増進課



目次	1	食育関係団体(さいたま市食育推進協議会委員)の食育取組状況	.....	1
	2	さいたま市食育関係部局の食育取組状況	.....	10
	3	公民館の食育取組状況	.....	35
	4	公立小・中学校の食育取組状況(小学校 42~50、中学校 51~60)	.....	42

## 1 食育関係団体（さいたま市食育推進協議会委員）の食育取組状況

- ・ 人間総合科学大学
- ・ 埼玉県栄養士会
- ・ さいたま市食生活改善推進員協議会
- ・ さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会
- ・ 日本チェーンストア協会 関東支部
- ・ さいたま市食品衛生協会
- ・ 浦和めぐみ幼稚園（さいたま市私立幼稚園協会）
- ・ さいたま市私立保育園協会 食育部
- ・ さいたま市PTA協議会
- ・ 市民委員（MOA インターナショナル埼玉）
- ・ 市民委員（食育研究会 MoguMogu）

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check										
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容【実績】 (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
人間総合科学大学	野菜の植え付け・収穫体験			○	○	◎			○				継続	その他	10名 (3回)	吉川市役所および吉川市4Hクラブの方々と学生とともに農業の一連の作業を実施した。また、収穫した野菜を用いて吉川市民まつりにて豚汁を調理販売した。	今回は、天候に恵まれ植え付け体験を無事に実施することができたが、水不足によりニンジンと生育状況が思わしくない結果となった。土づくりから見直す必要を感じた。					
人間総合科学大学	さいたまヘルスケア産業創出委員会:さいたま健康プロジェクト88-食の適塩生活								○	○	○	○	継続	その他	各店舗で注文していただいた方 100名	さいたま市内の飲食店5店舗において、本学の学生がナト・カリ調味料を用いて提案した適塩メニューをそれぞれ調理していただき、販売を行った。  「さいたま健康プロジェクト85」-食の「適塩」生活定着に向けて-(ナト・カリ塩の普及)	ご注文いただいたお客様から、ナト・カリ調味料によって味には影響はなく、適塩されていることに興味を持っていただいた。このことが浸透し、各家庭でもナト・カリ調味料の普及につなげていきたい。					
人間総合科学大学	規格外農産物の加工利用								○	○			継続	その他	1回	昨年度と同様、近隣の農産物生産者より、市場規格から外れてしまった夏みかんをご提供いただき、「夏みかんのフロマージュ」を調理販売した。	市場規格外の農産物でも調理することで、おいしい商品につなげることができた。					
人間総合科学大学	高校生の食事	○							○				継続	その他	高校生30名	高校生の「栄養」の授業内で講義。家庭科の教科書の記載内容に連動しつつも、新しい情報を取り入れ、1日3回の規則正しい食事の重要性を強調した。	過去に対象高校の食生活調査をしており、その結果を紹介することで、より一層興味をもって話を聞いてもらえた。					
人間総合科学大学	生活習慣病と食事	○		○									新規	その他	50名	蓮田市市民大学講座において、食事が生活習慣病に深く関与している話をした。	食生活に関心がある元気な方々が参加され、話も熱心に聞いていただいた。					
人間総合科学大学	地域のケアマネージャー勉強会	○		○									新規	見沼区	50名	ケアマネージャーおよび高齢者の方を対象に「高齢者の低栄養」について講義を行った。	日頃の食生活を見直すきっかけとなったとの感想をいただいた。					
埼玉県栄養士会	児童福祉施設におけるクッキング講座	○	○				○	◎	○				継続	その他	25名 (児童福祉施設に勤務している栄養士、調理員、保育士他)	スキムミルクを使った調理実習と児童福祉施設における食育の取り組み事例を紹介し、対象施設における食育や給食提供に対する調理技術および献立作成の知識・技術の向上に努める。	各施設での食育の取組みについての事例を聞いてそれぞれの施設でも実施可能なものを工夫して取り入れるようにしたいとの意見が多く聞かれた。					
埼玉県栄養士会	県産米を使ったおにぎり教室	◎	◎	○	○	◎	○	○					継続	桜区	市内(1回)…保育園児22人、保護者13人 市外(3回)…幼児・学童72人、保護者37人 合計121人(子ども71人、大人50人)	お米のできるまで、朝ごはんの大切さなどについて保護者や友達とおにぎり作りを通して楽しく学んでもらう。 今年度はさいたま市を含む4か所で実施した。	保護者と一緒「作って食べる」機会を設けることで、家庭での食事に関する会話や食事への意識が高まってくれることが期待できる。 幼児の他スポーツ少年団の小学生などにも実施した。熱心に話を聞いてくれる姿が印象的だった。					

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化															
埼玉県栄養士会	米粉を使った親子クッキング	○	○	○	○	◎	○	○	○				継続	その他		米粉と小麦粉の違い、米粉の特徴(小麦アレルギーの人にも使用できることなど)、米粉の特性、利便性などの説明や米粉を使用した料理の調理実習を行い、理解を深めてもらう。また、調理実習は親子のコミュニケーションの場としても楽しんでもらう。	アンケートの結果から一緒に作って食べることで「食」に対する興味が増し、普段は食べないものも自分から進んで食べるという変化が見られ、参加してよかったとの声も聞かれた。				
埼玉県栄養士会	管理栄養士・栄養士によるウェルネスアカデミー	◎	◎	○	○	◎							継続	その他	345名 (6会場)	① スポーツ時のコンディショニング 高校生の運動部を対象にした食育講座 大学生の運動部を対象にした食育講座 ② 元気に毎日を過ごそう ③ 働き世代の栄養学	市町村の「健康長寿プロジェクト」に取り組んでいる人、商工会、食育改善グループ、企業に勤務する方々など様々な方が参加された。 日ごろの食生活を振り返り、食事バランス、減塩の大切さなど、改めて理解が深まったという感想が寄せられた。				
埼玉県栄養士会	地域活動支援事業	○			○	○	◎						継続	全区	266人	① 高齢期の栄養についての講義 ② 寒天レシピの紹介 ③ 栄養バランスについて	簡単に作れそうなものばかりで栄養士から缶詰料理の提案があるとは思わなかった。 実践してみたいと思う、との声が聞かれた。				
埼玉県栄養士会	彩の国ドリームフェスタ 米まつり							○	○	○	○	○	継続	その他	11/11 70人 11/12 110人	米まつりに来場された県民の皆さんへの食生活相談を行う。 ① 11/11 体脂肪測定、アンケートによる食生活の相談 ② 11/12 骨密度測定、栄養相談	骨密度の測定は人気があり、人数制限をかけるくらい盛況であった。 県民の健康に対する意識が高まるような相談ができるように今後も取り組んでいく。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	総会	◎	◎	○	○	○	○						継続	浦和区	261名 (1回)	4/21「さいたま市民会館うらわ」 ・総会 ・講演テーマ「楽しく食べて健康に」 講師 キュービー株式会社研究開発部 研究推進部 妻谷勝弘氏	すみやかに議事進行が行われた。  バランスのよい食生活、運動習慣、社会との関わりをもち社会貢献に尽力することが大切ですと講話、長寿社会を健やかに送る秘訣を学ぶことが出来た。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	理事会	○	○	○	○	○	○						継続	複数区	76名 (4回)	・7/10 第16回総会報告・反省・29年度について 他 ・10/10 「パパとチャレンジ！わくわくクッキング」報告 他 ・1/15 県食改報告提出の件、総会に向けて 他 ・3/19 H29年度総会打合せ	滞りなく議事進行がおこなわれ活発な意見交換ができた。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	合同研修会	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	継続	複数区	242名 (3回)	講義と調理実習 ・7/10 薬について ・10/10 生活習慣病予防の食事 ・1/15 休養・こころの健康づくり	講義は昨年に引き続き休養・こころの健康づくりで多数の参加で自分自身の心の向きあひ方を学べた。 調理実習はさいたま市の農業と地産地消の取組みについての講義とヨーロッパ野菜を使った献立は新たな食材を知る機会となった。			

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

団体名	事業名	Plan						Do				Check								
		計画の目標					ライフステージ						平成29年度		成果・課題等					
		5つの「食べる」		食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
三食	いっしょ	確かな目	まごころ												食文化					
さいたま市食生活改善推進員協議会	リーダー研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	浦和支部 211名7回  大宮支部 94名4回  岩槻支部 84名3回	講義と調理実習 ・浦和支部5/12「パパとチャレンジ！わくわくクッキング」他 ・大宮支部9/1「災害時の食事」他 ・岩槻支部12/6「行事食」他	地区グループ伝達のための多世代に向けての研修会、皆前向きに取組んでいる。 浦和支部は会場の都合で参加人数が限られ参加要望もあり今後の課題である。
さいたま市食生活改善推進員協議会	グループ伝達講習会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	5,515名 (348回)	講義と調理実習 合同研修。リーダー研修で学んだことを会員及び地域住民に伝達する。 ・浦和支部24グループ234回 3,416人 ・大宮支部14グループ 88回 1,637人 ・中央支部 2グループ 18回 260人 ・岩槻支部 1グループ 8回 202人	合同研修、リーダー研修で学んだ講義、調理実習を正しく解りやすく伝達することが出来た。特に食育の目標「食文化や地の物を伝え合い」食べるが今年度のテーマ、さいたま市の農業と地産地消を学び地域の食材に注目し活用に努め、合同研修で学んだ葉についてと心の健康づくりなど食と健康について更に考える機会となった。
さいたま市食生活改善推進員協議会	支部活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	190名 (4回)	・浦和支部：味噌づくり教室 ・大宮支部：工場見学(明治坂戸工場) ・岩槻支部：ちらし作り 工場見学(森永小山工場)	一般の方々とふれあう会場において生活習慣病予防のための情報発信、相談と望ましい食習慣を伝えたい。 今後も地域の方々と共に学び食育や健康づくり推進を継続して行きたい。
さいたま市食生活改善推進員協議会	グループ活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	4,732名 (49回)	・浦和支部 (2,436人) 「夏休み子どもクッキング」他25回 ・大宮支部 (356人) 「親子食育教室」他18回 ・岩槻支部 (1,940人) 「区民やまぶきまつり」他6回	地域の要望にこたえ乳幼児から高齢者まで、さまざまな食育事業を進めてきた。 今後もあらゆる世代に寄り添うことができるよう食育活動に取組んで行きたい。
さいたま市食生活改善推進員協議会	保健センター事業等への協力①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	110名 (4回)	親子食育講座 ・7/28 桜区 19人 ・8/3 北区 39人 ・8/10 中央区 28人 ・8/29 岩槻区 24人 ・元気になるお弁当のお話 ・ヌウとコバトンのおにぎりづくり	エプロンシアターでは元気になるお弁当のお話を子供たちが真剣に時には楽しげに聞いてくれた。 「三食しっかり食べる」「いっしょに食べる」をおにぎりづくりで伝えることが出来、参加者の健康づくりのお役に立てた。
さいたま市食生活改善推進員協議会	保健センター事業等への協力②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	1,399名 (7回)	・5/21 親子食育教室 ・6/25、1/21 パパ流肉体改善計画 ・9/15 北区発信！健康クイズラリー ・10/14 のびのび子育て広場 ・10/15 親子でごちそうごはん ・11/5 浦和区健康まつり	保健センターの様々な事業に協力することで多世代の参加者と触れ合い健康増進に貢献することが出来た。 今後も多様な欲望に答えることが出来る様に前向きに学んで行きたい。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化															
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業① 財団法人食生活協会委託事業	○	○	○	○	○							継続	桜区	30名 (1回)	1/26 生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業 ・講義と調理実習 ・テーマ 塩分下げておいしさアップの減塩料理	禁煙と適正体重維持と運動習慣を身につけ減塩を心がけ食事バランスガイドを使って食事の望ましい組合せを知ることが大切と伝えた。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業② 埼玉県委託事業	○	○	○	○	○							継続	緑区	30名 (1回)	12/26 米料理教室 原山公民館	米消費拡大を目的にした米料理教室 埼玉県産の米を利用し主食・主菜・副菜・汁物そしてデザートライスケーキとごはんを利用してバリエーションをつけたメニューに身近な食材で少しの手間と工夫で様々な料理へと変わるので参加者から感嘆の声が上がりました。2品作ってみますと感想、今後も地域の人の健康な食事づくりについて伝えていきたい。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業③ さいたま市委託事業	○	○	○	○	○	○						継続	全区	212人 (10回)	「パパとチャレンジ！わくわくクッキング」 テーマ：～親子で知ろう近くでとれる野菜や旬なもの～ ・6/10岩槻区 18人 ・6/24桜区 25人 ・6/17緑区 27人 ・6/24大宮区 22人 ・6/17見沼区 21人 ・6/26南区 20人 ・6/18中央区 22人 ・7/8北区 18人 ・6/24浦和区 18人 ・7/10西区 21人	「食文化や地の物を伝え合い」食べる～親子で知ろう！近くでとれる野菜や旬なもの～をテーマに地元の旬な食材取り入れ旬な時期の食べ物のおいしさを体験してもらった。積極的に料理に取り組む子どもと一緒に調理出来たことはいい経験になった。				
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業 食育推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		継続	複数区	336名 (18回)	・浦和区 11/16、1/11 24人 ・桜区 11/30、12/19 37人 ・南区 11/29、12/7 54人 ・緑区 11/17、1/17 48人 ・西区 8/7、1/22 29人 ・北区 10/4、11/9 28人 ・大宮区 9/25、10/12 38人 ・見沼区 11/16、12/20 38人 ・中央区 8/18、11/17 40人	生活習慣病予防11回、親子食育他2回、高齢者食育5回の事業をいたしました。バランスのよい食事を三食しっかり食べるを多世代の参加者に伝えることができた。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	料理教室 (ひまわり)		◎	○	○	○							継続	浦和区	各回12名 ×年10回 (第1水曜日)	バランス食の会の会員が毎月当番で献立を立て、実習を行っている。 このクラスは、特に、料理が得意な方が多く、同じ食材でも変化のある献立を望んで居ります。 食材の知識、栄養についての講義の後で、実習を行っています。	食材、献立の応用も上手に出来て来ています。家族の食事、お客様のおもてなしや年中行事食にも心掛けたい。 試食での会話はとても重要なヒントを与えてくれます。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	料理教室 (食生活講習会)		◎	○	○	○							継続	浦和区	月2回 第2木曜日 12名×年10回  第2金曜日 12名×年10回	木曜クラスと金曜クラスは参加者が異なるので、同一献立を使用。 特に家族での献立で、旬の食材、話題の食材を使い、毎日の献立で目新しさを工夫し使用できる様、気をつけています。	家での評価や作った時の話が聞けて、大変参考になります。 本年は40代の方も増えて、新しい献立や食育の参考になる話をしています。 質問も多く、皆熱心に参加してくれています。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check										
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	料理教室 (男の手料理)	○	◎	○	○	○	○						○	継続	中央区	各回7名 ×年10回 (第3水曜日)	日常的な献立を中心に、基本メニューや作りたいメニューを聞いて、献立作成。 食材の旬・料理の基本・由来、栄養価等を講義し、実習を行っている。	調味料の測り方は正確で、調理も熱心に取り組み、家に帰って必ず作ってくれています。 ご家族からも好評の様です。 特に若い会員が担当しており、勉強になります。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	料理教室 (らくらく健康クッキング)		◎	○	○	○	○						○	継続	中央区	各回8名 ×年10回 (第4水曜日)	家族の食事にマンネリ化から脱したいと言う人が多く、目新しさ、話題性、旬の食材を使用し、家族の会話も増えた様です。 毎月参加者同士が会食するのを楽しみにしています。	盛り付け、料理の温度等、ちょっとした注意が良い様です。 食材の産地等も気にしている方が多いので、こちらも勉強をして行きたいと思います。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	彩の国 いきがい大学 伊奈学園 栄養講座	○	◎	○	○	○	○						○	継続	その他	いきがい大学受講者  各回37名 ×2回	いきがい大学より依頼で、シニア期を健康に過ごすために、テーマ「若さを保つ食生活」の講義を致しました。	食事についての質問も多く、塩分・高血圧・糖尿病の事について気になる人が多かった。 介護・介護食のアドバイスも多く求められました。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	彩の国 いきがい大学 伊奈学園 調理実習	○	◎	○	○	○	○						○	継続	その他	各回25名 ×4回 (男女)	栄養講座終了者対象 「若さを保つ食生活」の実践 家族の食事作りではなく自分の事は自分でする楽しさを経験 後かたづけもすべて行い、家でもお手伝い出来る様にする。	何回も受講する人も増え、バランスのとれた食生活への理解・実践が出来る様になり、料理に興味を持つ高齢の男性が増えました。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	埼玉県米消費拡大推進 連絡協議会 助成事業		◎		○	○	○	○						継続	西区	保育園児 20名	埼玉県産米を使った「おにぎり教室」 おにぎり3種を作り、自分のお弁当箱に、おにぎり、おかず、果物等を詰めて、お弁当を作り、皆で会食をする。 お米作りの感謝と、親への感謝を感じてもらいました。 エブロンシアター上演	自分で作ったおにぎりを皆で美味しく食べました。 自分で詰めた物は皆残さず食べました。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	埼玉県米消費拡大推進 連絡協議会 助成事業		◎	○		○	○	○	○	○	○		○	継続	中央区	市内在住親子20名  大人8名 小人12名	「米粉を使った親子クッキング」 埼玉県産米粉を使用 ◎米っこパーガー 2種 (豚肉の焼肉風味・あんこ) ◎米粉だんごフルーツポンチ  米粉の特徴を紹介し、親子で手作り体験をしてもらう	米粉の使い方を説明し、興味を持ってもらえた。 アレルギー(小麦)のあるお子様にも使えるので喜んでもらえた。				
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	障害者交流センター (講座)	○		○		○	○							新規	浦和区	40名 (男女)	「障害者の食事指導」 聴覚障害者が自分で買物や食事作りが出来る様ポイント指導。 食事バランスガイドを使用し、パワーポイントで説明。	食事に対する質問を大変多くいただきました。 色々な面でお困りの様子で、これからも少しでもお役に立てればと思っています。				



平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
日本チェーンストア協会 関東支部	(株)マルエツ 料理&カルチャー教室 いーとびあ	○					○						継続	その他	<2017年通期> ・小学1.2年生 30人 ・小学3.4年生 48人 ・小学5～中学生 27人 1コース6回×3コース 料理の作り方だけでなく、栄養知識、包丁など調理器具の正しい使い方、食事マナー等食育をサポート。 ・小学1.2年生 料理を好きになってもらうためのクラス、栄養やマナーもやさしく伝える。 ・小学3.4年生 料理への興味を深め、食事の大切さやマナーを伝える。米のとぎ方やだしの取り方も実施 ・小学5～中学生 食に関する知識を深め、献立作りを行う。	いーとびあの食育講座として、保護者様から好評をいただいている人気講座です。					
さいたま市食品衛生協会	食品衛生			○		◎	○	○	○	○	○	○	継続	浦和区	6～7名 年2回 食中毒予防キャンペーンを行う。 浦和駅周辺 8月・11月 街頭キャンペーンでチラシを配る。 食中毒予防のため、市民に注意を呼びかけをする。	市民の方は多少認識していると思います。 チラシを受け取らない方が多いので一人でも多くの方に受け取って頂けるよう努力したいと思います。					
浦和めぐみ幼稚園 (さいたま市私立幼稚園協会)	健康給食センター サニーキッズ		◎	○	○		○	○					継続	南区	全園児 276名 週5日ある給食で、毎日、給食を配膳してから食材を目の前にし、本日使われている食材の種類や名前、栄養素などを教師が説明することにより、食事についての確かな目を養う。又、食材が捕れるまでの過程を話し、感謝の気持ちを持ってよう導く。	食材について様々な方面から話をする、バランスのとれた食事の大切さを理解し、幼児ならではの素直な気持ちで食事と向き合うことができるようになる。それによって、好き嫌いが減り、家庭でも嫌いなものが食べられるようになりましたと感想をいただきました。					
さいたま市私立保育園協会 食育部	調理講習会と勉強会の実施		◎	○		◎	○	○	○				新規	全区	さいたま市内の民間保育施設の給食従事者 ①52名 ②104名 さいたま市内の民間保育施設(私立認可保育園・認定こども園)の給食従事者に向けて、アンケート調査を実施した。最も要望が多かった①「食物アレルギーの調理講習会」及び②「食物アレルギーについての勉強会」を実施した。 保育課の職員にも講師等の派遣で協力をいただいた。 私立保育園協会に加盟していない園に対してもアンケート調査を実施し、講習会等に参加していただくよう呼びかけた。	保育課の協力もあって、充実した内容の調理講習会と勉強会を実施することができた。厨房内は孤立してしまっている現状の中、他園の職員と一緒に学び合う研修会はとても為になったようである。協会加盟外の園の参加も多く、どの園においても、食物アレルギー児に対しては、正しく、同じ方向性を持って対応することを再確認できた。					
さいたま市PTA協議会	市P協さいたま	◎					○		○	○			継続	全区	PTA会員 約9万人 平成28年3月発行「市P協さいたま No.30」にて食育をテーマに特集。 朝ごはんと学力の関係も密接に影響しあう「食育」を考えるきっかけづくりをした。と同時にアレルギーについても掲載。						

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化															
市民委員 島田 すみ子 (MOAインターナショナル埼玉)	食育リーダーの育成及び活動の促進	◎	○	○	○	◎							○	○	○	継続	その他	MOA食育指導員・推進員 3か月に1回 14名	主に日本型食生活の普及をテーマとした料理のレシピや紙芝居など楽しく学べる資料を提供し、地域コミュニティでの食育活動を推進していくリーダーの育成として資格講座及び研修会を実施した。食育推進検討会を開催して、食育セミナーなどの計画、実施のサポートを行っている。	参加した食育指導員、推進員が、それぞれが関連する団体やコミュニティにて、食育セミナーを実施した。検討会にて、それぞれの取り組み成果や課題を出しあい情報共有し、工夫を話し合ったり、実習を行う中で、食育活動の推進に役立っている。食育の推進にあたって、朝食の欠食についてや地産地消の推進が課題であり、意見を出し合って計画を検討していく。	
市民委員 島田 すみ子 (MOAインターナショナル埼玉)	食育セミナー・調理講習会	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	継続	その他	食育に興味ある団体・個人	食育活動を行う団体とも協同して「親子で楽しく学ぶ食育セミナー」「元気になる食事法・食育活動体験会」「自然農法の田んぼで稲作体験」など、幅広い層の方々が、楽しく学べる料理教室や農業体験を実施している。お米をテーマにした紙芝居や野菜トランプ、旬の野菜を使用した手毬寿司づくりなど、生活の中で簡単に取り入れられる工夫や提案を通して、食育をサポートしています。	食育指導員、推進員が、それぞれが関連する団体やコミュニティにて、食育セミナーを実施した。野菜をメインにした手毬寿司づくりや、自然農法産の大豆を使ったみそ作りは、幅広い世代で好評であり、健康づくりや日本の食文化を見直すきっかけにもなっている。学齢期、青年期の方々には田植えなどの農業体験が食育の貴重な場となっているが、参加者の拡大が課題である。					
市民委員 松成 容子 (NPO法人食育研究会 Mogu Mogu)	もぐもぐファーム	○		○	○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	一般及びサポーター会員とその家族 22家族×7回	さいたま市内の経験豊富な農家の方の協力をいただき、1年間を通じての畑での収穫体験と、郷土料理教室。家族一緒に畑で、土の感触や自然の空気を感じながら、旬の野菜が並ぶ畑の景色をながめ、収穫体験をする。その場で収穫した新鮮な野菜を味わい、時には、ピザや鍋ミニパーティーも開催。6月～2月まで、畑収穫体験が5回。8月に郷土料理教室「うどん作り」2月に「みそ作り」	見沼区、緑区	農家の方から毎回、野菜作りや気候風土の話などが聞けて、知識や興味が広がり、より収穫体験が楽しめた。農家の方の苦勞も知り、消費者として理解が深まった。家族で参加することで、畑体験が家庭での会話にもつながり、食べ物を中心に家族のコミュニケーションがうまれた。子どもが野菜を食べられるようになった。などの感想が聞かれた。				
市民委員 松成 容子 (NPO法人食育研究会 Mogu Mogu)	子ども食育サークルもぐもぐキッズ (全5回) 前期・後期	○	○	○	○	○	○					継続	その他	一般及びサポーター会員 小学生8人×全5回(後期)	おいしいものを作ったり、食べたりしながら、みんなで楽しいことを実践していくサークル。こんなことやってみたい！これを作ってみたい！など、参加の子どもたちの意見も取り入れる。毎回テーマにそった食育的なミニ学習もある。	作る楽しさ、作ってあげる喜びを感じ、家庭でも進んで料理をするようになった。とのおうちの方からの感想。講座の中で、震災があった時期に防災食をテーマにしたり、子どもたちに「生きる力」を育む機会になっている。					

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check							
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度			成果・課題等				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)		
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進	
市民委員 松成 容子 (NPO法人 食育研究会 Mogu Mogu)	親子料理教室もぐもぐランド 「ホテルベーカリーのシェフとパンを作ろう！」	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	緑区	一般及びサポーター会員 親子26人	一流ホテルのシェフと、親子一緒に楽しく粉からパン作り。 作ったのは2種類のパン。 プロのシェフからは、パン作りのコツや技を見せていただきながら、パンがなぜふくらむのか？そのパン作りのふしぎを、タネあかしてもらう。 また、作り手としての思いを語っていただき、消費者でもある参加者の方々が考えるきっかけとなる。	親子でパン作り体験し、楽しい時間を共有。 食を真ん中に親子でコミュニケーションの時間がうまれた。 パンが何からどのようにできているか、素材を知って食べ物の元を知ったり、プロの作り手の技をみたり、思いを知ることで、ただ食べていただけのものに対して、もっと違う角度から見ることができ、興味が広がった。
市民委員 松成 容子 (NPO法人 食育研究会 Mogu Mogu)	プロに習う 夏休み子どもパン教室	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	一般及びサポーター会員 子ども・大人53人	製パン技術者の全国組織、ジャパン・プロフェッショナル・ベーカーズ友の会との共催。 製粉会社のプロ用設備の中でベテラン講師に習う会。 粉から作る自分の作品は2種類。 ミニ学習には、パンはなぜふくらむのか、など、夏休みの自由研究にもなるようなテーマ。	パン作りを仕事にしているプロのシェフと接することで、子どもたちが将来の仕事について考えるきっかけとなった。 本物を見たり触れたりすることは、とても新鮮で刺激を受けた。 パンは何からできているのか、なぜふくらむのか？など体験から学ぶことができた。
市民委員 松成 容子 (NPO法人 食育研究会 Mogu Mogu)	親子料理教室もぐもぐランド 「プロに習うクリスマスのローストチキン」	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	一般及びサポーター会員 親子14組	クリスマス用に丸鶏のローストチキンを焼いて持ち帰る。 福島産の伊達鶏を使って1羽丸ごとの鶏の解体を学び、命をいただくことを実感しながら、上手な鶏の焼き方と焼けた丸鶏の切り分け方を学ぶ。	自分では普段なかなか作らないものをプロに習うことで、意外と簡単においしく作れることを知る。 一体の鶏の姿を知り、解体をみることで、命をいただいていることを実感でき、感謝の気持ちをもつことができた。 自分たちで焼いた丸鶏を持ちかえり、クリスマスの食卓に並べ、食を真ん中にして家族でのコミュニケーションにつながった。
市民委員 松成 容子 (NPO法人 食育研究会 Mogu Mogu)	魚つかみ&川遊びと、 ブルーベリー摘み バスツアー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	一般及びサポーター会員 大人・子ども46人	秩父の谷川でイワナをつかみ取り、その場で塩焼きにしていた。きれいな川での水遊びをしたあとは、ビタミンたっぷりのブルーベリー摘みへ。	自然を満喫しながら、自分でつかまえたイワナをあらわたをとって串にさすことで、命をいただいていることを実感できた。 またその場で塩焼きしたイワナを家族と一緒に食べることは、とてもおいしく楽しい体験だった。 自然の中で生きていく上でのルールも学ぶことができた。 家族で食を中心に、夏のよい思い出を共有できた。
市民委員 松成 容子 (NPO法人 食育研究会 Mogu Mogu)	大人の食育 「節分の料理といわれを楽しむ会」	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	25人 (1回)	東京・上野にある水月ホテル鷗外荘にて、節分の料理といわれを楽しむ大人のための食事会を開催。 目でも舌でも楽しめる節分や季節にちなんだ料理は、総料理長よりいねいに説明をいただきながら、味わい、節分のいわれも勉強しつつ、日本の食文化をあらためて、考える会となった。	1つのテーマで集まった人たちが、そのテーマにそって会話し、料理をいただくことで、一緒に食べることを楽しめた。 日本の食文化「和食」をあらためて大切に、誇りに感じられる体験となった。

## 2 さいたま市食育関係部局の食育取組状況

- ・ 食品・医薬品安全課
- ・ 地域保健支援課
- ・ 子育て支援政策課
- ・ 青少年育成課
- ・ 保育課
- ・ 環境創造政策課
- ・ 資源循環政策課
- ・ 農業政策課
- ・ 10区保健センター協力事業
- ・ 保健センター共通事業
- ・ 各区保健センター
- ・ 健康教育課（教育委員会）
- ・ 生涯学習振興課（教育委員会）
- ・ 生涯学習総合センター（教育委員会）
- ・ 健康増進課

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
食品・医薬品安全課	食の安全フォーラムの開催			○			○	○	○	○	○	○	継続	複数区	第1回:53名 第2回:77名 第3回:100名 3回	フォーラムを3回開催した。内容は食に関する情報の講演・意見交換等。 第1回は9/26にプラザノースにて開催した。テーマは「何が本当?～食の安全情報とのつきあいかた～」。 第2回は10/31に武蔵浦和コミュニティセンターにて開催した。テーマは「本当の『食の安全』を考える～リスクのものさし～」。 第3回は12/12に武蔵浦和コミュニティセンターにて開催した。テーマは「健康食品で健康になれる?」。	図書館や公民館等に案内チラシを配置した。 今後も入場者数を増やすためのPR方法やテーマ設定等を検討する。				
食品・医薬品安全課	食の安全委員会の開催			○		○	○	○	○	○	○	継続	その他	委員数13名 4回	食の安全・安心を確保するため、広く市民の意見・提言を施策に反映し、各界代表者の意見交換を目的として年4回(8/4、11/1、12/21、3/22)開催した。	食の安全確保対策について、意見・提言をいただき、施策に反映させた。					
食品・医薬品安全課	食の安全対策会議の開催			○		○	○	○	○	○	○	継続	その他	構成員10名 3回	食の安全に関し、正確に必要な情報の提供と知識の普及、組織横断的な連携及び調整を図ることを目的に、関係する庁内の課所長等で組織する「食の安全対策会議」を年3回(7/24、12/8(メール開催)、2/23(メール開催))開催した。 次年度における食の安全基本方針アクションプラン及び食品衛生監視指導計画の検討を行った。	アクションプラン及び食品衛生監視指導計画の案を提示し、庁内関係課所の意見を伺い、反映させた。 組織横断的な会議として、今後も引き続き開催する。					
食品・医薬品安全課	次年度食品衛生監視指導計画の策定			○		○	○	○	○	○	○	継続	その他		食品衛生法に基づき、平成30年度の総合的な食の安全確保に向けた食品の監視・指導・検査計画(案)を作成し、ホームページ等で意見募集を行った。	庁内関係課と意見交換を行い、写真を掲載する等、業務の様子が分かるようにした。 平成29年度の結果については平成30年6月末までに取りまとめ、公表予定。					
食品・医薬品安全課	次年度食の安全基本方針アクションプランの策定			○		○	○	○	○	○	○	継続	その他		関係各課と連絡をとり、平成30年度の素案の作成を行った。食の安全対策会議等で意見交換を行い、内容の改正を行った。	平成29年度の結果については平成30年7月末までに取りまとめ、公表予定。					
食品・医薬品安全課	食育webによる市民への情報提供					○	○	○	○	○	○	継続	その他		キャンペーン等で「食育ナビ」のリーフレットを配置した。	「食育ナビ」について、市ホームページ(食品衛生のページ)との整理を図りつつ、内容をさらに充実させていく必要がある。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
食品・医薬品安全課	食肉等の生食等による食中毒予防対策の実施			○									継続	その他	夏期に発生が懸念される細菌性食中毒の予防対策として、食中毒予防対策強化期間を設定(6月～8月)し、以下のことを実施した。 ・街頭キャンペーンを行い、リーフレットと啓発品(754組)を配布した(8/9)。 ・市報さいたま6月号及び7月号に食中毒予防の記事を掲載した。 ・小学生及びその保護者にリーフレット(74,780枚)を配布した。 ・中学校にポスター(1,500枚)を配布した。 ・食肉衛生検査所及び食品衛生課による、焼肉店等の飲食店や食肉販売施設等の監視を行った。	高温多湿な夏期全体に対応するため、期間を延長した。 街頭キャンペーンの開催日を小中学校等の夏休みである8月に設定した。場所については昨年度と同じだったが、シティセールス部が所管する他の商業施設の利用を検討する。 小中学生を対象としたチラシは、小学生及び中学生のそれぞれに対応した内容に変更した。					
食品・医薬品安全課	ノロウイルスによる食中毒予防対策の実施			○									継続	その他	冬期に流行期を迎えるノロウイルス等に起因する食中毒、感染症を予防するために以下のことを実施した。 ・市報さいたま11月号に食中毒予防の記事を掲載した。 ・街頭キャンペーンを行い、リーフレットと啓発品(800組)を配布した(11/15)。 ・保育施設職員を対象としたノロウイルス対策研修会を開催した(11/2)。 ・社会福祉施設等を所管する関係課所にパンフレット(3,043枚)及びリーフレット(965枚)を配布した。 ・市内の大量調理施設(246施設)へパンフレット、リーフレット及び啓発品を配布した。	ノロウイルス対策研修会の開催時期を昨年度よりも早めた。内容について、保育施設職員の要望に応えられるよう工夫が必要。 関係課所に配布したパンフレットの評判が良く追加希望が多数寄せられた。					
食品・医薬品安全課	食の安全・安心市民講習会の実施			○									継続	その他	20名 全7回	食に対する「確かな目を持つ市民」を養成することを目的に、5/22、6/27、7/26、9/21、11/29、1/29、3/15の全7回の講習会を開催した。 食品衛生に関する市の取り組みや農業の安全性、食品添加物、食品表示、リスクコミュニケーションなどの講習を行った。 20名中、規定の回数を受講した参加者12名に対し修了証を交付した。	受講に意欲のある受講生の確保やそのための受講生の募集方法などの検討が必要。 出席率、修了率を向上させる方法の検討が必要。				
食品・医薬品安全課	サイエンスカフェの実施			○									継続	複数区	53名 1回	2/28にさいたま市宇宙劇場にて開催した。テーマは「食品のリスク評価～化学物質編～」。	定員30名を予定していたが、53名もの参加者数となった。 サイエンスカフェという形式に不慣れな市民が多いため、意見交換の仕方や会の進め方、会場の雰囲気作りを事務局が手助けする必要がある。				

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化															
食品・医薬品安全課	食の安全市民ネットワーク推進員			○			○	○	○	○	○	○	継続	その他	48名 3回	平成28年度の食の安全・安心市民講習会を受講し修了した方を、地域と行政を結ぶ役割を担い、食の安全情報を伝達する推進員として委嘱した。 年間3回(5/10、10/5、3/12)ネットワーク会議を開催し、各自の食の安全への取り組み内容や、日頃の購買活動の中で食の安全について気になっている点などを意見交換した。また、食の安全に係る施設見学や国の審議会の傍聴を行った。	活動報告や会議への出席について、推進員間で活動状況に差が出ている。 出席率の向上方法の検討が必要。				
地域保健支援課	・給食施設における栄養成分表示の推進 ・栄養関係団体育成事業			○			○	○	○	○	○	○	継続	全区	【特定・小規模給食施設等施設数】 671施設 (H30.3現在)  【さいたま市保健所管内給食研究会】 53施設 (H30.3現在)	・特定、小規模給食施設について、栄養管理報告書により栄養成分表示の有無について、毎年6月の実績をもとに確認を行った。 ・特定・小規模給食施設の巡回指導や、栄養関係団体に対する活動支援を行った。 ・特定・小規模給食施設等に従事する栄養士等に対する研修会を開催した。(4回)	健康増進法に基づく給食施設の届出件数は依然として増加しており、今後はより計画的に指導・助言・研修を行う必要がある。				
地域保健支援課	健康づくり協力店普及促進事業	○		○			○	○	○	○	○	○	継続	全区	【指定店舗数】 55店舗  (H30.3現在)	年度初めに全店舗を訪問し、平成28年12月に改正した要綱の説明と新しい指定証を交付した。また、新規店舗の拡大に努めた。	閉店で指定解除となった店舗もあったが、調理師会の協力もあり、新規に28店舗指定することができ、健康に関する情報を提供する店舗を増やすことができた。				
地域保健支援課	市民団体の支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	【食改】 603人 (会員数) (H28実績、H29.4現在)  【愛育会】 371人 (会員数) (H28実績、H29.4現在)	・さいたま市食生活改善推進員協議会育成事業(10区合同リーダー研修会)を年3回実施。 「薬について」「生活習慣病予防の食事」「休養・こころの健康づくり」  ・さいたま市保健愛育会「高齢者ふれあい会食」等	食生活改善推進員協議会の育成支援については、時宜にあったテーマ等について調整を行う。 保健愛育会については、地区からの依頼で事業を実施している。				
子育て支援政策課	食育に関する情報の配布、掲示の協力						○	○					継続	全区	—	離乳食や幼児向けの食育に関する冊子やチラシの配布、ポスター等の掲示の依頼があった際に、0～2歳児までの親子が利用する「単独型子育て支援センター」や「のびのびルーム」で配布・掲示協力した。	食育に関して来場者に啓発した。				

○は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
子育て支援政策課	単独型子育て支援センターでの食育に関する事業						○	○					継続	全区	—	・単独型子育て支援センター10か所すべてで、育児相談(食事・栄養に関する相談を含む)を実施した。 ・離乳食講習会を実施した。 ・食育に関する絵本・パンフレット・レシピ集・パネルを展示・掲示・配布した。 ・おいもほり等、食への関心を高める体験をする機会を設けた。	各取り組みを通して、子育てをする方に食への関心を持ってもらうことができた。				
青少年育成課	さるはなキャンプフェスタ・親子のつどい		○			○		○	○				継続	見沼区		荒天のため中止。					
青少年育成課	【植竹児童センター】 「栄養士による離乳食講話」	○	○	○		◎	○				○		継続	北区	乳児4名 保護者4名	対象:0才児とその保護者 実施日:2月21日(水) 内容:保健センターの栄養士さんを講師とし、離乳食についてのお話、アンケート回答、悩み相談を行う。	事前にアンケートを取り、回答をしながら離乳食について話をしていた。参加数に波があり少人数であったが、その分個人的な相談も十分にできていた。				
青少年育成課	【植水児童センター】 子育て支援事業 「すくすく教室」	◎	○			◎	○			○	○		継続	西区	小学生20名 保護者5名	対象:小学生とその保護者 実施日:平成29年8月4日(金) 目的:地域に住む児童が健康でのびのび育つよう、講話や調理体験を通し、楽しみながら食育を学べる子育て支援を行う。 内容:植水地区社会福祉協議会・植水児童センター共催事業。保健センター管理栄養士、食生活改善委員の方々を講師に季節の食材を使った料理を作る。	夏野菜のキーマカレー、ミルクかんを作り皆で楽しく食べました。また、栄養講話を調理前に行い「食事のバランスガイド」「朝ごはんの大切さ」を学び、「食育」について興味・関心を持つことに繋がりました。				
青少年育成課	【植水児童センター】 ハイハイサロン 「離乳食講座」	○	○	○		◎	○				○	○	継続	西区	乳幼児4名 保護者3名	対象:0歳児とその保護者 実施日:平成30年2月13日(火) 目的:離乳食についての知識を深める。 内容:保健センター管理栄養士による離乳食のメニュー・調理のポイントの紹介。保護者の離乳食に関する悩み、疑問を解決する。	前半は講座20分間、資料に沿い月齢に合わせた離乳食のポイントの説明のあと、後半は質問タイム20分間。1つ1つの質問・回答に、参加の皆さんはとても満足されていた。				
青少年育成課	【馬宮児童センター】 離乳食講座	○	◎			◎	○				○	○	継続	西区	乳児9名 保護者9名	対象:乳児とその保護者 実施日:平成29年11月6日(月) 目的:離乳食についての専門的な知識を深める。 内容:保健センターの管理栄養士による離乳食についての講和や個別相談。保護者の悩みや疑問を解決する。	事前のアンケートから離乳食の進め方や栄養のバランス、牛乳などのアレルギー等について回答をいただいた。その後、参加者全員が個別相談を希望し、丁寧に話をいただいた。				
青少年育成課	【馬宮児童センター】 野菜を育てて収穫しよう		○				○					○	継続	西区	小学生33名	対象:小学生以上 実施日:平成29年6月～9月 目的:食物の栽培、収穫体験をする。 内容:児童クラブの児童を中心に、プランターで野菜の栽培、収穫を行った。	水をあげる時に、だんだんと大きくなっていく野菜を見て、世話をする楽しみや喜びを味わっていた。野菜が嫌いな児童も、自分で収穫すると喜んで持ち帰っていた。また、親子でどんな料理にしようかという会話が多かった。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。



平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
青少年育成課	【馬宮児童センター】食育講座	○	◎			○	◎	○	○	○		継続	西区	小学生10名 保護者6名	対象:小学生と保護者 実施日:平成29年8月9日(水) 目的:食育についての知識を深め、実践する。 場所:馬宮公民館 内容:保健センター管理栄養士、食生活改善推進協議会の方々を講師に食材や食事について学び、季節の食材を使った夏野菜のキーマカレーとミルク寒天を作る。	食育についての講話後、季節の食材を使って、親子で調理を実践。親子でまた、参加者同士でコミュニケーションを取り合いながら、楽しく取り組むことができた。子どもたちの苦手な夏野菜が多かったが、保護者の方が驚くほど、よく食べていた。					
青少年育成課	【宮原児童センター】クレープを作ろう		○			○		○				新規	北区	小学生12名 中学生2名	対象者:小学生以上 実施日:平成29年8月20日(日) 場所:宮原児童センター 内容:食への関心を高め、利用者同士交流しながらクレープを作る。	講師を招き、本格的なクレープ作りを教わった。難しかったけど楽しかったと参加者から声があがった。					
青少年育成課	【宮原児童センター】食育講話	○	○	○	○	○	○			○	○	新規	北区	乳幼児10名 保護者8名	対象者:乳幼児とその保護者 実施日:平成29年11月17日(金) 場所:宮原児童センター 内容:乳幼児保護者に向けた、保健センターの栄養士による食に関する講話	講話を熱心に聞く方が多く、講話終了後に個別に相談する保護者も少なくなかった。					
青少年育成課	【本郷児童センター】じゃがいもほり	○		○	○	◎	○	○		○	○	継続	北区	幼児39名 児童16名 保護者40名 シニア5名	対象:幼児・児童とその保護者、高齢者 実施日:平成29年6月24日(土) 目的:親子でじゃがいもの収穫体験を共有し、コミュニケーションを深め、世代交流を行うとともに、食への関心を持ってもらう。また、地域で栽培されている野菜の事を知り、愛着を感じてもらうことを目的としている。 内容:地域の自治会長の畑にて、地域の方々同士コミュニケーションを図りながら楽しく親子でじゃがいもの収穫をおこなった。	多くの親子さんに参加していただくことが出来、良かったと思う。また、毎年実施を楽しみにしてくださっている方も多く、とてもニーズの高い事業である。					
青少年育成課	【本郷児童センター】乳幼児向け食育講座	○		○		◎	○					継続	北区	保護者8名 乳幼児9名	対象:0歳の乳幼児とその保護者 実施日:平成29年6月7日(水) 目的:児童センターを利用されている乳幼児の保護者に対して保健センター栄養士から離乳食など『食』に関する基本的な事項について講座を行っていた。また、参加者への適切な指導・支援をとおして、食生活の大切さについて理解を深めていただくことを目的とする。	参加人数は少なかったが、意識の高い方が多く、質問事項なども多く挙手があがった。専門的な話が聞け、とても意義のある講座だった。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check										
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
青少年育成課	【三橋児童センター】 乳幼児食育講座	○	◎	○			○						継続	大宮区	乳幼児11名 保護者11名	対象者: 幼児食期の幼児とその保護者 実施日: 平成29年10月19日(木) 場 所: 三橋児童センター 内 容: 栄養士さんによる講話 「幼児食とおやつ」の講話	事前に保護者に向けて、食事についてどのような疑問や悩みを抱えているかを聞き取りし、当日の講話の中で栄養士さんに答えていただいた。栄養士さんが、保護者向けに、イラスト入りの分かりやすい資料を作成のうえ配付していただき、保護者も手に取って熟読していた。講話終了後も栄養士さんが個別相談に細かく応じてくださったため、話を聞いていただいたという満足感が参加者の不安解消につながった様子であった。					
青少年育成課	【天沼児童センター】 栄養士講話	○	○	○			○			○			継続	大宮区	幼児5名 保護者5名 (1回)	対象1歳の幼児とその保護者 実施日: 平成30年1月24日(水) 場所: 天沼児童センター 内容: 幼児をもつ保護者に向けた食事に関する保健センター栄養士による講話 講話テーマ: 食事のしつけ(手洗い・うがい・あいさつ等)、規則正しい生活リズム、バランスのよい食事・好き嫌い等	講話に熱心に耳をかたむけている方が多く、栄養士に個別に質問している方もいて、利用者様に専門的な情報提供を行うことができた。悪天候の為、参加者少なかった。					
青少年育成課	【天沼児童センター】 やきいもパーティ		○	○	○	○	○	○	○	○	○		継続	大宮区	幼児45名 小学生27名 保護者(高齢者含む)66名 ボランティア3名 (1回)	対象: 0~18歳未満の児童とその保護者、60歳以上の方 実施日: 平成29年12月9日(土) 場所: 天沼児童センター 内容: 地域の方々の交流の場となるようみんなで一緒にやきいもを作って食べる、火の扱い方を学ぶ。	NPO法人ハンズオン! 埼玉&おとうさんのヤキモタイム実行委員会のキャンペーンに応募して実施した。「おいしかった」「いい体験ができた」「またやりたい」といった声が多く、とても好評だった。事前に地域の方々へチラシでお知らせしておいたことで、煙による苦情等は無く、多くの方に参加していただいた。高齢者や、親子参加が多かった。					
青少年育成課	【天沼児童センター】 みんなでクッキング		○	○	○	○	○	○	○	○	○		新規	大宮区	①小学生5名・ボランティア1名 ②小学生4名 ③小学生10名(予定) 年3回	対象: 小学生 実施日: ①平成29年8月8日(火)・②12月26日(火)・③平成30年3月28日(火)(予定) 場所: ①東公民館調理室、②③天沼児童センター 内容: 簡単な調理をし、みんなで食べる。①ごはんを炊いておにぎりを作ろう ②メロンパン風クッキー作り ③チョコバナナを作ろう。	自分で簡単な調理をし、調理の楽しさを知る。また自分で調理するきっかけとする。					
青少年育成課	【片柳児童センター】 クッキング						◎			○			継続	見沼区	年12回実施 小学生120名	対象: 小学生 定員: 各10くみ 実施日: 平成29年4月15日(土)、5月20日(土)、6月17日(土)、7月15日(土)、8月19日(土)、9月16日(土)、10月21日(土)、11月25日(土)、12月16日(土)平成30年1月20日(土)、2月17日(土) 場所: 片柳児童センター 目的: クッキングを通して、食に対して関心が持てる機会をする。 内容: 簡単なお菓子作り(たこ焼き、餃子、ライスピザ、蒸しパン、チョコフォンデュ等)	材料を切ったり、焼いたりしてクッキングを経験し、様々な食への関心となる機会となった。毎月実施することで、昨年度より多くの児童が参加できる事業となった。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
青少年育成課	【片柳児童センター】お茶体験						◎	○					継続	見沼区	年3回 小学生20名 乳幼児保護者12名	対象:小学生、乳幼児保護者 実施日:平成29年8月23日(水) 平成30年1月7日(日) 場所:片柳児童センター 目的:子どもの体験活動の普及として、日本文化である茶道を楽しむ機会を作る。また、茶道を通して礼儀作法を知る機会とする。 内容:ボランティア講師による茶道体験	実際にお抹茶をたてたり、和菓子を食べたり、参加児童は楽しんでいる。他にも礼儀作法としてふすまの開け方や歩き方なども体験しながら学べ、何度も参加する児童も多い。今年度は幼児事業にも取り入れ、保護者向けにも実施した。				
青少年育成課	【片柳児童センター】離乳食講座						◎	○			○	○	継続	見沼区		保健センター職員が産休に入り、来れなかったため実施せず。					
青少年育成課	【片柳児童センター】ディキャンプ		◎				◎	○					新規	見沼区	幼児10名 保護者12名	対象:1歳児以上の未就園児とその保護者 実施日:平成29年11月12日(日)9:45~13:30 場所:グリーンライフ猿花キャンプ場 目的:緑豊かな自然と触れ合いながら、野外レクリエーションを親子で楽しむ。また、利用者相互の交流を図り、児童センターPRにも努める。	初めての事業だったが、たくさんの親子さんが応募し、参加してくれた。ほとんどの家族が父親連れで、なぜか調理担当は父親になった。(特に父親にお願いしたわけではないのに…)自然の中で家族同士の交流も見られ、とてもいい企画となった。				
青少年育成課	【春野児童センター】おかしなパーティ		◎				○	○					継続	見沼区	小学生67名 保護者1名	対象:小学生 実施日:平成29年6月24日(土) 平成29年9月16日(土) 平成30年2月10日(土) 場所:春野児童センター 内容:簡単なお菓子作り	成果:普段利用しない児童もセンターに足を運ぶ機会となった。異年齢の子どもたちが、お菓子作りをとおして交流することができた。 課題:調理設備が不十分であった。簡単に安全に作れる献立(お菓子)の検討。				
青少年育成課	【春野児童センター】離乳食講座	○		○			◎	○	○	○			新規	見沼区	乳児8名 保護者8名	対象:乳児とその保護者 実施日:平成29年6月14日(水) 場所:春野児童センター 内容:保健センター栄養士による講話	成果:講話の後の質疑応答により、個別で知りたいことを聞くことができた。 課題:広報				
青少年育成課	【春野児童センター】子ども公民館		◎				○	○			○		継続	見沼区	小学生30名 保護者9名	対象:小学生 実施日:平成29年7月15日(土) 平成29年12月9日(土) 平成30年3月3日(土) 場所:春岡公民館 内容:うどん、ピザ、サンドイッチ等の調理	成果:公民館共催のため専用の調理室を使用して行うことが出来た。小学生のみならず親子行事もあり対象・内容も幅広く行うことが出来た。 課題:献立の検討と広報				
青少年育成課	【大戸・向原児童センター合同事業】おもいほりにいこう!						○	○	◎	○			継続	中央区	60組	対象:幼児とその保護者 実施日:平成29年10月23日(月) 目的:幼児とその保護者に対して、地域の畑に向き、自然に親しむ場を提供するとともに、収穫の喜びを体験する機会とし、食育事業の一環とする。 内容:地域の農家のいも畑を借り上げ、親子で一組当たり、さつまいも3株を掘る。	いも掘りを通し、土に触れ、とれた芋の大きさに一喜一憂しながら、親子でのコミュニケーションを楽しんでいた。特に保護者の満足度が高い印象だった。後日、様々な調理法や食べた感想の報告を受け、行事をきっかけに、家族で食に関しての会話が広がったのではないかと感じた。※与野本町児童センターは、中規模修繕中のため不参加。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check										
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
青少年育成課	【与野本町児童センター】 「離乳食講座」	○	○	○	◎	○							継続	中央区	①親子16組 ②親子13組	対象：乳幼児とその保護者 実施日：①平成29年6月7日(水) ②平成30年2月8日(水) 目的：離乳食を開始する予定の乳児の保護者及び与え方に悩んでいる保護者の方に講話、相談の機会を提供する。 内容：栄養士による離乳食についての講話	事前に保護者の方の質問を栄養士さんに伝えることで、離乳食の悩みなどについての確かな回答を得ることができ、子育ての不安などを軽減できたと喜んでいました。また、実際の離乳食づくりと組み合わせた講座ができれば分かり易さが増すと感じた。					
青少年育成課	【向原児童センター】 親子であそぼう0才「食育講話」			○		◎	○							中央区	乳幼児17名 保護者16名	対象：0歳児の乳児の保護者 実施日：平成29年6月21日(水) 目的：離乳食について知り、理解を深める。 内容：中央区保健センターの管理栄養士から主に離乳食のすすめ方について講話を実施。それぞれの資料も用意し、生後5～6カ月頃、7～8カ月頃、9～11か月頃と3段階に分析内容だった。また、6月は食育月間という話をし、埼玉県の特産品を食べようという啓発も行った。	親子であそぼう(0才)のセンター事業と組み合わせで実施し、参加しやすいようにした。雨天だったが普段と変わらずに16組の親子が参加した。興味を持っている方ばかりだったので真剣に聴講していた。今後も続けていきたい。					
青少年育成課	【与野本町・向原・大戸・大久保東児童センター】 中央区・桜区合同 中学生料理教室			◎				○	○				継続	中央区	中学生4名	対象：さいたま市内中高生 実施日：平成30年3月11日(日) 目的：中高生世代は食料をコンビニ等で購入することが多いが、冷蔵庫にあるような食材で簡単にできるものを作り、孤食ではなくみんなと一緒に会食する楽しさを味わう。 内容：手軽でおいしい昼ごはん＆お菓子作り	簡単な食事、デザート、お菓子を友達と作り、みんなで食事を囲み、自分たちが作ったものを一緒に美味しく食べる時間を楽しんだ。次回の内容についても中高生の意見をきくことができた。					
青少年育成課	【大戸児童センター】 ハイハイサロン「離乳食講座」	○				◎	○						継続	中央区	①親子17組 ②親子18組	対象：乳児の保護者 実施日：①平成29年5月18日(木) ②平成30年1月18日(木) の計2回 場所：大戸児童センター 目的：栄養士からの食育講話を聴くことにより、乳児の食についての理解を深め、不安を解消する。 内容：栄養士による講話や個別相談	1時間のプログラムの配分は、初期・中期・完了期と分けて講話。その後個別相談となっていた。講話終了後の質疑応答にて質問が相次ぎ、保護者の食に対する関心の高さが窺えた。					
青少年育成課	【大戸児童センター】 チョコランチ作り			◎		◎	○						新規	中央区	小学生13名	対象：小学生以上の児童 実施日：平成29年12月22日(金) 場所：大戸児童センター 目的：簡単おやつを作り、皆と一緒に食べることにより、参加者相互の親睦をはかる。 内容：ミルクチョコレートと乾パンでチョコランチを作り、皆で会食した。	身近な食材でのおやつ調理に参加者同士の会話も弾んでいた。それぞれ個性的な形に仕上がりに、会食も和やかに進んだ。調理イベントについて今後も実施してほしい、との希望の声が多く上がった。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

担当課所名	事業名	Plan							Do				Check			
		計画の目標					ライフステージ		平成29年度				成果・課題等			
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期		参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進						新規/継続	実施場所				
青少年育成課	【浦和別所児童センター】 「食育講座」			○			○					継続	南区	乳幼児11名 保護者10名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成29年7月11日(火)  目的:子どもの食中毒について理解を深める。 内容:第1部 南区保健センターの栄養士から、知っておきたい子どもの食中毒についての講義と手洗いポイントレクチャー。第2部 栄養士と保健師による個別相談。	平成29年度も、南区保健センターの協力により、子どもの食中毒にスポットをあてた食育講座を開催した。個々の疑問や悩みについて直接栄養士と保健師に相談できた。
青少年育成課	【文蔵児童センター】 楽しくつくろう～クッキング～	○	○				◎	○	○			継続	南区	乳幼児4名 小学生87名 保護者6名	対象:小学生 実施日:①平成29年4月22日(土)②平成29年6月24日(土)③平成29年8月3日(木)④平成29年10月14日(土)⑤平成28年12月16日(土)⑥平成30年2月24日(土)⑦平成30年3月24日(土) 目的:簡単な調理や共に食べることによって食の楽しさ、大切さを知る。 内容:楽しくクッキングをしながら食べる。	公民館の調理室を利用した本格的なクッキングや、ホットプレートを使った簡単クッキングなどを行った。小学生向けのため、低学年の参加もあり、友だちと、作って、楽しく食事をするこできた。
青少年育成課	【文蔵児童センター】 食育講座	○	○				◎	○	○	○		継続	南区	乳幼児51名 保護者47名	対象:乳幼児親子 実施日:①平成29年11月2日(木) ②平成30年2月16日(木) 目的:乳幼児期の食について理解を深める。 内容:南区保健センターの栄養士による食育講座と食に関する相談役を行う。また個別相談も行う。	栄養士による食育講座として実施。0歳児事業内で離乳食を中心の講話で実施した。保護者のグループでのフリートークでは悩みや質問に栄養士が、熱心に答えていて、保護者にとっても良い時間となった。
青少年育成課	【岩槻児童センター】 食育講座	○	○				◎	○	○			継続	岩槻区	①小学生11名 ②小学生14名 ③小学生親子26名 ④小学生13名 ⑤小学生10名 ⑥小学生5名	対象:小学生1～6年(※8/22のみ親子企画) 実施日:①平成29年6月11日(日)②平成29年8月2日(水)③平成29年8月22日(火)④平成29年10月22日(日)⑤平成30年1月28日(日)⑥平成30年2月18日(日) 場所:コミュニティセンターいわつき 内容:楽しくクッキングをしながら子ども同士で交流を図る。自分たちで作ったものを、味わって食べる。	前年度より参加者多く、特に親子企画は人気。季節柄、冬は体調不良などにより参加者減少。子どもが楽しめてさらに簡単に作れる物を実施していきたい。
青少年育成課	【岩槻児童センター】 土曜クッキング	○	○				◎	○	○			継続	岩槻区	小学生119名	対象:小学生 実施日:①平成29年6月17日②平成29年7月15日③平成29年8月19日平成29年8月26日④平成29年10月7日④平成30年1月20日⑤平成30年2月3日⑥平成30年2月10日⑦平成30年3月3日⑧平成30年3月17日 場所:岩槻児童センター 内容:季節のイベントに合わせたクッキングや楽しく作って食べられる内容を考え実施。	簡単クッキングはとても人気で、リピーターも多い。1回に参加できる人数が限られてしまうので、継続して実施することもある。今後子どもたちが楽しめる企画を考えていきたい。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

担当課所名	事業名	Plan							Do			Check				
		計画の目標					ライフステージ		平成29年度			成果・課題等				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期		高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進											
青少年育成課	【岩槻児童センター】 こどもかふえ	○	○	○	○	◎	○	○				継続	岩槻区	小学生123名 幼児21名 保護者20名 中学生1名	対象:小学生(※長期休み等是不特定) 実施日:※全て土曜日①平成29年6月24日②平成29年9月30日③平成29年11月25日④平成30年12月9日⑤平成30年1月6日⑥平成30年1月27日⑦平成30年2月17日 場所:岩槻児童センター 内容:手作り軽食の提供	無料企画の時は、どんな子どもでも来られるが、料金がかかるものは参加できない子どももいるので、誰でも参加できるような内容で実施できるよう検討していきたい。
青少年育成課	【岩槻児童センター】 食育実践しようプロジェクト	○				○	◎	○				新規	岩槻区	幼児全般	対象:幼児全般 実施日:平成30年3月20日(火) 場所:岩槻児童センター 目的:野菜を知ってもらうため 内容:人間総合学科大学の生徒による食育活動	
青少年育成課	【仲本児童センター】 仲本ファーム・プチトマト栽培		○			○	◎	○	○	○	○	継続	浦和区	利用者全般	対象:利用者全般 実施日:平成29年5月～7月中旬 場所:仲本児童センター 目的:野菜が育つ過程を見守り、収穫した野菜を食べることで食べ物に対する関心と理解を深める。 内容:プランターに苗を植え、成長を見守る中で自然の恵みを実感するとともに、収穫し味わうことで野菜に親しみを持つ。	野菜が育つ過程を日々見守り、収穫して味わった。保護者の方の話によると、成長する過程を見守ったことで、食べてみたいという気持ちが増したようだった。
青少年育成課	【仲本児童センター】 食育あそび	○	○			○	◎	○		○		継続	浦和区	乳幼児28人 保護者27人	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成29年6月23(木) 場所:仲本児童センター 目的:食べることの楽しさを伝え、食育に対して関心を持っていただく。 内容:親子でお弁当づくり遊びを通じ、おいしい食事をバランスよく食べる疑似体験を行った。	いろいろな食材を食べることで、元気な体をつくれることを、遊びを通じて体験できた。また、食育月間や食育の日を紹介し、食育に関する情報を提供した。
青少年育成課	【仲本児童センター】 食育ボランティアによる食育の講話	○	○	○		○	◎	○		○		継続	浦和区	乳幼児26名 保護者26名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成29年11月8日(水) 場所:仲本児童センター 目的:食についての専門家からの情報提供 内容:幼児向け食育あそびと、情報提供。	見る活動や手遊び等を通じて親子で楽しみながら、「食べ物」「食べること」に関心をもっていただくきっかけとなりました。
青少年育成課	【仲本児童センター】 学生ボランティア食育のおはなし	○	○			◎	○			○		継続	浦和区	乳幼児 名 保護者 名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成30年3月16日(金)(予定) 場所:仲本児童センター 内容:さいたま市健康増進課「食育を実践しようプロジェクト」の一環。学生ボランティアによる食育あそび	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
青少年育成課	【尾間木児童センター】 べっこうあめづくり	○	○				◎	○					継続	緑区	①小学生12名 ②小学生13名 ③小学生19名	対象:小学生 実施日:①4月8日(土)②4月22日(土)③10月14日(土) 場所:尾間木児童センター 内容:ホットプレートを使用。砂糖水を作りアルミカップに流す。ホットプレートで沸騰させ、黄色色になったら冷やし固めて出来上がり。	作る工程は簡単ですが、砂糖水から色が変わっていく変化なども楽しみながらできました。途中、良い香りが部屋一杯に広がり、食欲をそそりました。				
青少年育成課	【大久保東児童センター】 栄養士による講話	○	○	○			◎	○					新規	桜区	①乳幼児21名 保護者18名 ②乳幼児15名 保護者13名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:①平成29年5月11日(木)・ ②平成29年10月4日(水) 内容:保健センターの栄養士さんを講師とし、離乳食についてのお話、アンケート回答、悩み相談を行う。	事前にアンケートを取り、回答をしながら離乳食について話をしていた。そのため、静かに集中して聞いていた。その後の個別相談でも、質問をしていた方もいた。				
保育課	保育園での食育	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	175事例	対象:公立保育園へ通う児童、その保護者 場所:各公立保育園 内容:公立保育園が食育年間計画を作成し、保育士等が実施した食育が61事例。保育課の栄養士が公立保育園に出向いて実施した食育が63事例(園児向けの食育が51事例、保護者向けの食育が12事例)。	各園において食育年間計画を作成し、子どもの月齢や発達に応じた食育を実践している。また、保護者が食への意識を高められるように働きかけを行っている。各園の目標に合わせ、保育課栄養士が各園を訪問し、食育を実施している。 来年度も引き続き、各園で目標を設定し、実施していく。				
保育課	食だよりの発行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	5回/年	対象:公立保育園の保護者、食育ナビの閲覧者 実施:年5回発行 場所:公立保育園へ通う児童の保護者へ配布、食育ナビ上へ掲載 内容:季節ごとの食に関する情報発信、衛生・食物アレルギーについての情報発信等	栄養士から公立保育園の保護者への情報発信ツールとして活用している。また、食育ナビへ掲載することでより広く発信することができている。 今後も、発信するテーマを検討しながら継続していく。				
保育課	公立保育園併設型子育て支援センター(4園)および子育て談話室(1園)での食育	○	○	○			○	○					継続	複数区	14事例	対象:公立保育園併設型支援センター、公立保育園子育て談話室の利用者 場所:公立保育園併設型支援センター(日進保育園、大砂土保育園、与野本町保育園、西町保育園)、公立保育園子育て談話室(大谷場保育園) 内容:乳幼児期の食生活についての講話、個別相談等	利用者に公立保育園での給食を媒体として、食に関する情報の発信をすることができた。講話後の栄養相談の希望も多く、保育所併設型の子育て支援センターの施特徴を生かした食支援が可能である。今後も継続して実施していく。 今年度は栄養相談を各施設2回以上実施できたので、来年度も継続していきたい。				
保育課	食育ナビにて保育施設における食育活動の発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	8事例	対象:市内の保育施設、食育ナビの閲覧者 実施:年8事例 内容:市内の保育施設で行っている食育の取組、食物アレルギー研修の紹介	食育ナビで発信することにより、保護者を始めとして、園で行っている食育活動の発信ができた。 今後も継続して発信していく。				

Plan		Do										Check										
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
環境創造政策課	さいたま市環境フォーラム				○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	中央区 大宮区	参加者数 (実施回数)  展示参加団体: 24団体 スタンブラリー参加者: 1,230人 その他見学者: 13,600人  開催日 10月6日(金)・7日(土) 会場 さいたま新都心駅東西自由通路 コクーンシティコクーン1 コクーン プラザ  市民、事業者、学校、行政などがそれぞれの立場で行っている環境保全活動についての発表を通じ、お互いの情報交換と交流の場、また、多くの方々に環境に関心を持っていただくための環境教育・学習の場を創出することを目的とした、市内では最大級の環境イベントとして実施している。環境への配慮と併せて食育についても広く啓発を行った。	健康増進コースにて、食育の啓発を実施した。					
環境創造政策課	エコライフDAY				○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	夏 19,585人 冬 16,526人  取組期間 夏 6月～9月 冬 12月～3月  夏と冬の年2回、ある1日を省エネ・省資源など環境に配慮して過ごし、その成果を二酸化炭素の排出削減量で把握する取組であり、環境配慮のきっかけ作りを目的としている。 取組項目には、「食べ残しをしない」「近くの産地の食材を買う」といった、食育推進に関連する内容が含まれており、市立小中学校の児童・生徒、市職員やその家族などに取組んでもらった。	環境に配慮していただく中で、食育の推進についても取り組んでもらうことができた。						
資源循環政策課	九都県市廃棄物問題検討委員会 3R普及促進事業				○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	「食べきりげんまんスマイルフォトコンテスト」  実施期間:平成29年10月1日～31日  場所:協力事業者の店舗、その他自宅等  200  内容:食事を残さず食べきって、空になった容器と笑顔の写真を専用応募サイトに投稿してもらい、その後入選作品を選定し賞品をプレゼントした。  市内実施店舗:10店舗 総応募数 :200件	食品ロス削減の必要性を周知できた。本事業は5年間継続しており、事業実施による効果や啓発手法等を再検討する必要がある。						
農業政策課	児童体験農業				○	○							継続	複数区	475  ・小学生を対象に田植え、稲刈り等の体験事業を実施(3校) 実施場所:西区、見沼区	生産から収穫、消費まで一貫した体験ができ、小学生にとって貴重な体験の機会となっている。農業後継者対策推進協議会事業として実施している。						



平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
農業政策課	ブランド米推進事業					○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	-	カバークロープを用いた栽培や農薬・化学肥料の使用を慣行の5割以下に減らした栽培など、環境保全型農業を中心とした米づくりを推進した。	今まで事業を推進していたうまい米づくり協議会が会の目的を達したことにより、今後の推進方法が課題。				
農業政策課	地場産農産物料理講習会					○	○	○	○	○	○	継続	複数区	96	ふるさとの味伝承士や農村女性アドバイザー等の協力により、市民を対象に旬の地場産農産物を活用した料理講習会を開催し、郷土料理の調理方法や農産物に関する情報提供を行った。 実施場所:岩槻区、北区、中央区、浦和区 開催回数:5回	内容によって応募者数にムラがある。 人気のある内容については、回数を増やすなどの検討が必要。					
農業政策課	さいたま市農情報ガイドブック・マップ作成					○	○	○	○	○	○	継続	全区	-	農業情報を掲載した冊子の作成配布を通じて、市内農業の市民へのPRに努めるとともに、地産地消の推進を図った。 ・農情報ガイドブック 8,000部	配布場所を工夫する等、冊子のより効果的な利用方法を検討する必要がある。					
農業政策課	農産物ブランド化事業					○	○	○	○	○	○	継続	全区	-	さいたま市内には、くわい・紅赤・さといも・小松菜・チコリー・木の芽など特色ある農産物が多く生産されており、花や植木の生産も盛んである。これらの農産物自身をPRするとともに、加工品の開発・商品化を行い、市内農産物の生産振興とその販路拡大を図った。 ・紅赤の商品化における新規開拓 ・イベント、庁内外でのPR活動	・加工品の原料の安定供給					
農業政策課	ニーズ対応型農業支援事業			○		○	○	○	○	○	○	継続	全区	-	消費者ニーズに対応した「欲しいものをつくる」ニーズ対応型農業を支援するため、地元業者と連携をとり、ホップの試験栽培を行った。	引き続き、ホップの試験栽培を行うとともに、新たなニーズの把握が必要である。					
10区保健センター協力事業	食生活改善推進員養成講座	◎	◎			◎							継続	複数区	54人	10区合同事業 4日間1コース (大宮区、与野本町コミュニティセンター会場) 実施日:8月23日(水)、11月1日(水)、9日(木)、15日(水) 内容:講義・運動実技・グループワーク	アンケート結果より、講義・実習等は全体的に概ね理解されていた。意見・感想でも「先生方のお話を大変有意義に聞きました」など好評の意見がほとんどであった。「話の流れと資料提示が分かりにくい」という意見もあったことから、講師との打合せの時にアンケートの意見も盛り込んだ講義内容等検討を行っていきたい。				
10区保健センター協力事業	親子食育講座 ～元気になるお弁当★ ヌウ&コバトンのおにぎり作り～	◎	◎			○		○	○				継続	複数区	48組104人 (4回)	対象:3～6歳児(未就学児)とその保護者 実施日:7月28日桜区保健センター、8月3日北区保健センター、8月10日中央区保健センター、8月29日岩槻区保健センター 内容:エブロンシアター「元気になるお弁当」 実習「ヌウとコバトンのおにぎり作り」	参加者へのアンケート結果より「三食しっかり食べる」「いっしょに楽しく食べる」重要性について伝えることができました。参加者への感想からは家庭での食育実践へ繋げることができました。 平成30年度より、第3次さいたま市食育推進計画に合わせて、内容を変更して開催する予定。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

担当課所名	事業名	Plan										Do			Check						
		計画の目標					ライフステージ					平成29年度			成果・課題等						
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)				
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進																
保健センター共通事業	食生活改善推進員の育成	○	○				◎								○	○	○	継続	全区	各区の状況に応じて食生活改善推進員を育成。地区活動が円滑に進むよう、各区の活動状況にあわせた支援(研修会の開催や活動内容へのアドバイス等)を行っている。	支援を通して、地域における食を通じた健康づくりを進めている。会員一人一人の質の向上と、会員数の増加をひき続き目指していく。
保健センター共通事業	地区依頼教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	区によって異なる 区の状況に合わせて依頼を受けた。	食育推進計画(第3次)の推進を図る。
保健センター共通事業	出産前教室	◎																継続	全区	区によって異なる 妊娠中の食生活の留意点についての講義とバランスのとれた食事についての調理実習を実施。実施日、実施回数については区によって異なる。通年実施。	・区、月によって参加状況に差がある。 ・各区の現状にあった内容に見直しを行っていく。
保健センター共通事業	パパとチャレンジ! わくわくクッキング	○	◎								○	○	○					継続	全区	西区:10組 北区:9組 大宮区:11組 見沼区:10組 中央区:10組 桜区:11組 浦和区:9組 南区:10組 緑区:12組 岩槻区:8組 対象:小学生とその父親 実施日:6月~7月に各区1回 内容:「親子で知ろう! 近くで取れる野菜や旬のもの」をテーマに調理実習	アンケート結果より、「教室に参加したことで、現在の食生活を振り返るきっかけになりましたか。」の問で、「きっかけになった」と回答した人が96%と高い値となったことから、教室の内容は子育て世代の男性への生活習慣病予防普及啓発の機会となったと考えられる。
保健センター共通事業	特定保健指導	○																継続	全区	区によって異なる 生活習慣改善の自主的な取り組みのため、行動目標を立て、6か月支援を行う。乱れた食生活を改善し、内臓脂肪の減少のために1日にどのくらいのエネルギーが必要なのかを知り、朝食の大切さ、3食バランスよく取ることを食事バランスガイドなどを活用し支援していく。実施日は各区により異なる。	積極的支援を受けた方は、食事の見直しについて認識できたと考えられる。健診後、対象者が保健指導に繋がるような働きかけが必要である。
保健センター共通事業	離乳食教室	○	○															継続	全区	各区定員20~40人 対象:4~5か月児の保護者 実施:毎月1~2回 場所:保健センター 内容:離乳食の進め方講義と試食	不安を感じずに離乳食をすすめられるよう、デモンストラーションや試食を交えて教室を実施。お断り件数が少なくなるよう定員を配慮。
西区保健センター	食育推進を目的とした普及啓発(掲示等)	◎	○															継続	西区	2回 〈対象〉区役所来庁者 〈実施日〉6月、10月 〈場所〉区役所内区民ホール等 〈内容〉6月:食育月間に、区内の農産物直売所・農家レストランについての資料を掲示。農業政策課作成の農情報ガイドブックを配布。 10月:さいたま市朝ごはんを食べよう強化月間に朝食の大切さや役割、朝ごはんのおすすめレシピを掲示。米農家から提供された、もみ殻、ぬか、玄米、精白米などを展示。朝食摂取に関するパンフレットを配布。	情報を視覚的にまとめ、資料を自由に選べることで、区民がそれぞれ興味のある内容の資料を持ち帰ることができました。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
西区保健センター	親子でごちそうごはん ～お米編～	◎	○	○	○	◎	○	○					新規	西区	9組 19人	<対象>区内在住の小学生とその保護者 <実施日>10月15日(日) <場所>保健センター <内容>西区産のお米ができるまでについて西区の米農家さんからの講話と親子で西区の新米を使った調理実習。	アンケート結果より、全員が教室内容に満足した、今日の実習が家庭でのお手伝いの参考になったと回答しました。「本日の実習で意外と子どもがお手伝いをできると気が付きました。」などの感想があり、親子で実習することで、親が子どものできることに気づききっかけになったと思われます。また、「調理実習も大変得るところが大きかったですが、何より実際に、お米を育てている農家さんのお人柄にふれ、お話を聞いて、美味しいお米をいただいたことが良かったです。ありがとうございました。」という感想もありました。課題は、「もう少し子どもの調理が多いとよかった」という感想があったため、平成30年度は平成29年度と同じ内容のお米編と、新しく野菜編として、野菜を切る作業の多い教室も開催することとしました。				
西区保健センター	かがやく女性のための HAPPYエイジング ～燃焼系編～	○	○	○	○	○	○	○	○	○			新規	西区	20人	<対象>区内在住の18歳～50歳代の女性 <実施日>7月6日(木) <場所>保健センター <内容>ボクシングエクササイズ、健康・栄養についての講話と試食。	ボクシングエクササイズをする教室の中で、代謝を上げる食事をテーマに講話と試食を実施しました。アンケート結果より、「全身運動と代謝を上げる食事の勉強ができて良かった。」という感想がありました。運動と関係のある食事についての内容を一緒に伝えることで、意識が高くなったタイミングで伝えることができると考えられる。平成30年度は、試食と栄養についての講話をする運動教室を1回増やす予定。				
西区保健センター	自分磨きゼミ ～食べて・しゃべって・輝いて～	○	○	○	○	○	○	○	○	○			新規	西区	①12人 ②19人 ③14人 ④18人	<対象>区内在住の18歳～74歳 <実施日>①7月4日(火)、②9月22日(金)、③12月15日(金)、④1月29日(月) <場所>保健センター <内容>各回のテーマに合わせて講話、運動、試食を行う。	アンケート結果より、各回とも満足度が高く、テーマに合わせた食事についての講話ができました。60～70代の参加が多かったため、平成30年度から特定保健指導と合わせて対象年齢を64歳までとし、より若い世代の参加を促す予定。				
北区保健センター	食育推進を目的とした普及啓発(掲示等)	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	—	<対象>来庁者 <実施日>①6月、9月、10月②通年 <場所>①エレベーターホール ②保健センター内展示コーナー <内容>①6月:食育月間、9月:健康増進月間、10月:朝ごはんを食べよう強化月間に啓発記事の掲載、ポスター・掲示物での啓発、パンフレットの配布 ②食モデルやポスターの掲示、パンフレットの配布	啓発時期に特集的に食の情報を発信することで、広く市民に食について普及啓発を実施することができた。				
北区保健センター	からだスッキリ教室(生活習慣病普及啓発事業)	○	○	○	○	○	○	○	○	○			継続	北区	8人	対象:18歳から64歳 実施日:2月19日(月) 場所:北区保健センター 内容:減塩に関するミニ講義、栄養に関するDVD視聴 ※食育に関する内容以外で外2回実施	ミニ講義の中で、減塩のポイントについて市民に伝えることが出来た。栄養に関する質問もみられ、自身の食生活の課題に気づく等理解が深まっていた。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
北区保健センター	イトーヨーカ堂における普及啓発	○	○			◎	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	740人	対象:イトーヨーカドー来店者 実施日:9月15日(金) 場所:イトーヨーカドー大宮宮原店1階 内容:健康クイズ、減塩のポイントを示した献立展示	お昼時のフードコートは若い世代の親子連れから高齢者まで大勢の来客があり、気軽に立ち寄り参加する方も多く、家族の食の大切さについて考えてもらえるきっかけになった。 店舗の協力が得られるよう引き続き調整が必要。			
北区保健センター	パパ流100日間肉体改造計画	○	◎			○	○	◎	○					継続	北区	29人	対象:小学1～4年生とその保護者(父親) 実施日:①6月25日(日)②1月21日(日) 場所:①宮原児童センター②植竹児童センター 内容:(母子に対して)食育講義、食生活改善推進員による食育紙芝居の読み聞かせ・エブロンシアター	若い世代の父親への運動教室を実施した。父親の体力測定中に、児に対し3色食品群について講話を行った。クイズを交えながら話すことで児も楽しみながら食育を学ぶことができた。また、絵本やエブロンシアターでも児が意欲的に食材の名前等を発言する様子が見られ、食の興味を引き出すことが出来た。			
北区保健センター	ウォーキング教室 達人編	○												継続	北区	8人	対象:18歳から64歳 実施日:11月10日(金) 場所:保健センター・プラザノース周辺 内容:栄養講義(適正体重について、食べすぎを防ぐ工夫、バランスよく食べる工夫)  ※食育に関する内容以外で外2回実施(3日間1コース)	3日間1コースの運動教室の中でバランスの良い食生活についての講義を実施した。質問をする方もみられ、自身の食生活を見直すきっかけを作ることが出来た。			
北区保健センター	北区健康づくり 階段クイズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	—	対象:来庁者 実施日:①6月②9月③12月④3月 場所:北区役所東側階段 内容:①朝食②野菜摂取③バランスの良い食事④減塩 各テーマに関するクイズの問題・解答の掲示、チラシの配置	階段を利用している市民に対し、食の情報を発信することで健康に対する意識を高めるきっかけづくりを行うことが出来た。 チラシは合計で84枚配布することができた。			
北区保健センター	体脂肪・筋肉量測定会	◎												継続	北区	186人	対象:市内在住で18歳以上の方 実施日:①5月11日(木)②10月6日(金)③1月19日(金)④3月19日(月) 場所:①③④は北区保健センター②は北区役所1階多目的室 内容:野菜摂取、朝食、バランスの良い食事、減塩についてのリーフレットを配置	参加者にリーフレットを配布することで、広く市民に啓発ができた。効率的に広く啓発する機会となった。			
大宮区保健センター	健康週間を利用した食育の普及啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	大宮区	—	対象:大宮区役所来庁者 実施日:①食品衛生月間(8月1日～8月31日)②健康増進普及月間(9月1日～29日)③朝ごはんを食べよう強化月間(10月2日～31日) 内容:①食中毒予防②生活習慣病予防③朝食摂食について、保健センター掲示コーナーにてポスターや掲示物での啓発、パンフレットの配布を実施。	保健センターへの来庁者をはじめ、広く市民に普及・啓発ができた。			

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

担当課所名	事業名	Plan						Do				Check					
		計画の目標					ライフステージ						平成29年度				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進												
大宮区保健センター	OMIYAおやこ食育教室	○	○	○	○	○	○						新規	大宮区	10組(1回)	対象:区内在住の3～6歳児とその保護者 実施日:平成29年8月17日(木) 場所:大宮区役所保健センター 内容:親子で一緒に楽しく食体験として、バランスの良い食事のお話と簡単な食事づくり、食後に親子でブラッシングを実施。	参加者からは、「簡単な調理実習をやらせてもらい、楽しんで作っていました。」「食事についてよく考えさせられました。」「今日をきっかけに家でも一緒にやってみようと思います。」と好評をいただいた。教室の対象年齢が3～6歳児と年齢幅があるため、次年度は対象年齢の変更を行う。
大宮区保健センター	ママの元気アップ講座 ～ちょっと一息こころとからだのほぐしタイム～	○	○				◎						継続	大宮区	20組(1回)	対象:区内在住の0～3歳児とその母親 実施日:11月16日(木) 場所:子育て支援センターおおみや 内容:栄養バランスのとれた食事についての講義と体組成測定  ※食育に関する内容以外で外3回実施	子育て支援センターおおみやと協働し実施したため参加者が多く集まった。乳幼児を持つ母親に適切な食量と野菜摂取、家族や仲間と楽しく食べる大切さについて伝えた。体組成測定をあわせて行い、食事と健康の関連性についても啓発する機会となった。
大宮区保健センター	男の筋トレ講座	◎											継続	大宮区	6名(1回)	対象:区内在住の18～64歳の男性 実施日:平成29年1月27日(土) 場所:大宮区役所 内容:デンタルケアの講義、運動実技、野菜の上手な食べ方についてのリーフレット配布による啓発	普段保健センターの利用の少ない男性向けの教室であるが、参加者を定員まで集めることができなかったため、広報等の活用について見直しが必要。
大宮区保健センター	生活習慣病予防普及啓発イベントにおける食育啓発	○					◎						継続	大宮区	343名(2回)	対象:イベント参加者 実施日:①大宮区少年少女サッカー教室9月23日(土)、②大宮区ふれあいフェア10月28日(土) 実施場所:①NACK5スタジアム、②鐘塚公園 内容:食育や健康に関するリーフレットの配布による普及啓発。	大宮区で実施されたイベントへの参加者に、パンフレットや食育啓発グッズを配布し、広く市民に啓発ができた。効率的に広く啓発する機会となった。
大宮区保健センター	大宮区役所内で行われる事業を利用した食育の普及啓発	○					◎						新規	大宮区	—	対象:区役所内各課・他団体主催の事業への来所者 実施日:①食品衛生協会主催事業8月28日～29日、9月19日～9月21日、1月25日～26日、2月13日～14日・20日②市県民税納税申告大宮区役所会場2月16日～3月15日 内容:健康や食中毒予防、朝食摂食、野菜摂取についての普及啓発。会場内にポスターを掲示、パンフレットの配布を実施。	大宮区役所で行われる他課・他団体主催の事業への来所者に広く普及啓発ができた。利用者にとっても待ち時間に情報を得る機会となるため、今後も関係各課・団体と連携しながら啓発をしていきたい。
大宮区保健センター	行政情報電光放映板を利用した食育の普及啓発	○					◎						新規	大宮区	—	対象:大宮区役所来庁者 実施日:①8月1日～9月29日②10月2日～10月31日 内容:①食育の日についてH29年度重点目標「食文化や地の物を伝えあい食べる」の普及啓発②朝ごはんを食べよう強化月間についての普及啓発 大宮区役所1階の行政情報電光放映板を活用し、①②について窓口利用者に普及啓発。	各種申請の待ち時間を利用し、大宮区役所利用者に広く普及啓発ができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

担当課所名	事業名	Plan						Do				Check					
		計画の目標					ライフステージ						平成29年度				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期		高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進												
見沼区保健センター	～運動したパピママへ～ きらきら☆こどもキッチン	○	○	○	○	○	○	○					継続	見沼区	21組43名 (1回)	対象：区内在住の小学校3～6年生の児童とその保護者 実施日：平成29年7月24日(月) 場所：見沼区役所保健センター・NPO法人さいたまスポーツクラブ クラブハウスSSCあすも 内容：子どもは、元気な体をつくる食事の講義、調理実習。親は、体組成測定、生活習慣病予防についての講義、運動実技を行った。	教室名を変更し、内容は継続して実施した。小学校でちらしを配布したため、定員を超える申し込みがあり、調理実習が可能な範囲で定員枠を拡大して、区民のニーズに対応した。運動は近隣の施設で実施しているが、移動時間のロスがあるため30年度は保健センターで実施する。また、内容についても子育て世代を対象としているため、運動強度を上げて実施する。
見沼区保健センター	アラフォーからのボディ レッスン	○											継続	見沼区	延べ86名 (3日間1コース年間2コース)	対象：区内在住の64歳以下で生活習慣病予防に関心のある方、また特定健康診査の結果「積極的支援」の判定を受けた方。 実施日：年2コース(9月コース 平成29年9月6日(水)・11日(月)・25日(月)、1月コース 平成30年1月31日(水)・2月5日(月)・2月19日(月)) (1コース3日間) 場所：見沼区役所保健センター、大宮武道館、NPO法人さいたまスポーツクラブ クラブハウスSSCあすも 内容：メタボリックシンドローム予防のための「簡単ヘルシーごはん術」の講義と試食、歯科講義。2日目は美脚ウォーキングの運動実技、3日目は体幹エクササイズの実技。	1コース目で申込数が増えなかったことから、2コース目はチラシをリニューアルして配布し、申込数に伸びが見られた。アンケートでは2コース共に9割以上の参加者が「食事量・食事内容の見直し、油・塩分の取り方について、参考になった」と回答しており、行動変容のきっかけづくりになったと考える。3日間日程を調整することが難しいという区民からの声もあり、来年度は、1コース2日間で実施する。
中央区保健センター	親子deクッキング	◎	◎				○	○					継続	中央区	12組27名 (1回)	親子で楽しく調理実習をしながら食生活を見直し、食事の大切さを学ぶ教室 対象：3歳～未就学児とその保護者 実施日：5月21日(日) 場所：中央区役所保健センター 内容：講話と調理実習	アンケート結果より、「子どもと一緒に料理すること」を目的として参加した人がほとんどであった。今後は小学生とその保護者を対象に朝ごはんの大切さを伝えていくようにおこなっていく予定。
中央区保健センター	パパとチャレンジ！ ヘル歯クッキング ～幼児編～	◎	◎				○	○					新規	中央区	11組23名 (1回)	父と子供と一緒に調理と歯みがき実習を行い、栄養バランスの良い食事や食生活・歯の健康について楽しく学ぶ教室 対象：3歳～未就学児とその父親 実施日：9月9日(土) 場所：中央区役所保健センター 内容：講話と調理実習	アンケート結果より、「バランスのとれた食事、朝ごはんの大切さがわかった」「歯とお口の健康の大切さについてわかった」との回答が100%であった。今後も食事や歯磨きの大切さについて伝えていくように継続予定、名称を「パパとヘル歯クッキング」に変更。
中央区保健センター	ヘル歯お菓子クッキング & ウエル噛むお茶会		◎										新規	中央区	4人 (1回)	体にうれしいお菓子を作る教室。ヘルシーお菓子をよく噛んで、みんなで楽しくお茶会 対象：区内在住の18～64歳 実施日：1月24日(水) 場所：中央区役所保健センター 内容：講話と調理実習	アンケート結果より満足度は100%であったが、申し込み人数が少なく定員割れとなったため検討し、この事業は終了。お菓子作りではなく、正月太り解消をテーマとする食事・歯と口の健康の教室へ変更する。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
桜区保健センター	ごちそう☆桜区レストラン	◎				◎	◎	○	○	○		継続	桜区	11組23名	対象:小学3～6年生とその保護者 実施日:8月26日(土) 場所:桜区保健センター 内容:さいたま市産農作物の調理実習や栽培者からの話を通して、地域の食文化・地産地消について伝える。また、親子で試食することで、共食の大切さを伝える。	アンケート結果より、理解度・満足度は100%であった。また「米や野菜のことがよくわかってよかったです」「もっと埼玉産の食品に目をむけていきたいと思いました」等の感想があった。					
桜区保健センター	(M)みんなで(I)一緒に(A)歩こう会♪	◎		○						○	○	継続	桜区	45名(3回)	対象:さいたま市民(のびのびウォーキング参加者) 実施日:6月15日(木)、10月27日(金)、2月19日(月) 場所:桜区保健センター 内容:朝ごはんを食べる習慣や減塩についてミニ栄養講話を実施後、桜区ふれあいロードをみんなでウォーキング。	パンフレットの配布やフードモデルの提示で、よりわかりやすく食育について伝えることができた。					
桜区保健センター	親子手打ちうどん教室		○			○	◎	○	○	○		継続	桜区	22名	対象:小学校4年～中学生とその保護者 実施日:8月1日(火) 場所:プラザウエスト キッチンスタジオ 内容:桜区の食文化を将来に語り継ぎ守り伝えることを目的として、保健愛育会と協働して実習を行う。	教室参加者に啓発品の配布を行い、食育の推進ができた。					
浦和区保健センター	うらわメタ防クラブ with PTA (生活習慣病予防普及啓発事業)	◎	○	○		○	◎	○	○	○		継続	浦和区		平成29年度は食育以外の内容で実施						
浦和区保健センター	10年後も美しい私の食習慣 in 幼稚園 (生活習慣病予防普及啓発事業)	◎	○	○		○	◎	○		○	○	継続	浦和区	①32名 ②10名	さいたま市私立幼稚園協会浦和区支部の協力により開催 【対象】区内私立幼稚園の保護者 【実施日】①7月14日(金) ②9月20日(水) 【場所】①厚德幼稚園 ②ひかり幼稚園 【内容】管理栄養士による講義「バランスのよい食事」、歯科衛生士による講義「歯と口の健康」、保健師による講義「メタボの基礎知識」	アンケート調査結果より「自分にとって適切な食事の内容・量が分かった」100%、「教室に参加したことでバランスのよい食事を実践しようと思った」94%であり、望ましい食習慣について考えるきっかけを提供することができたと考えられる。					
浦和区保健センター	夏休み親子味と調理の発見教室	◎	○	○		○	◎	○	○	○		継続	浦和区	①15名②18名	さいたま市PTA協議会浦和区連合会の後援をいただき開催 【対象】区内在住または在学の小学校3～6年生の児童とその保護者 【実施日】①7月25日(火)②7月27日(木) 【場所】浦和区役所保健センター 【内容】管理栄養士による講義、調理実習、保健師による健診・検診の受診勧奨 【協力】食生活改善推進員	対象学年を拡大したが昨年度に引き続き申し込みが定員に満たなかったため、来年度は対象、開催時期を検討。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check										
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度										成果・課題等
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)						
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											食育の推進					
浦和区保健センター	浦和区健康まつり保健センターブース	◎					○	○	○	○	○	○	○	○	継続	浦和区	延べ6,187名 (浦和区健康まつり全体の来場者数)	【対象】来場者 【実施日】11月5日(日) 【場所】浦和コミュニティセンター 【内容】望ましい食習慣や生活習慣病予防に関するクイズ・展示・パンフレット等の配布	多くの方に望ましい食習慣や生活習慣病予防について普及啓発ができたと考えられる。			
南区保健センター	食育講座 おやつ&歯びか教室		◎				○								継続	南区	5組(1回)	【対象】南区在住の平成23年4月2日～平成26年4月1日生まれの児とその両親 【実施日】9月2日(土) 【場所】南区役所保健センター 【内容】講義「野菜の食べ方とその効果」 「歯周病予防」 実習「野菜を使ったおやつ作り」 「仕上げみがき実習」	本事業は「自身の食習慣や歯の健康について振り返りきっかけとする」ということを目的としていた。実施後アンケートでは、親全員から目的を達成できたとの回答を得られた。次年度は対象を幼児から小学生に変更して実施予定。			
緑区保健センター	パパと一緒に栄養教室	○	◎	○	○	○		○							継続	緑区	8組(16人)	対象:小学3～6年生とその父 実施日:11月18日(土) 場所:緑区保健センター 内容:講義「バランスの良い食事」 実習「ドリア・スムージー作り」 講義「よく噛んで食べることの大切さ」	アンケートの結果より、教室の満足度が高く、父と子で一緒に食について学ぶ良い機会となった。			
緑区保健センター	区民まつり(保健センターブース/のびのび子育て広場食育コーナー)		○	○			○	○	○	○	○	○			継続	緑区	保健センターブース 350人 食育コーナー 175人	対象:緑区民まつりの来場者 実施日:10月14日(土) 場所:農業者トレーニングセンター緑の広場(緑区民まつり会場) 内容:保健センターブース「体組成測定・握力測定」 食育コーナー「食育クイズ」	保健センターブースでは、子供連れの家族からお年寄りまで幅広い年代の方が参加した。子育て広場では、幼稚園から小学生くらいまでのお子さんと親が参加し、楽しくクイズに答えていた。			
緑区保健センター	プレ更年期教室			○											継続	緑区	15人	対象:30～40代の女性 実施日:12月5日(火) 場所:緑区保健センター 内容:講義「プレ更年期の特徴と気を付けたい食事」 実習「プレ更年期を乗り切るリラックス方法と運動」	アンケート結果より、教室の満足度が高く、食生活について考える良い機会になっている。			
緑区保健センター	おなかすっきりで燃焼しやすい体づくり運動・栄養教室			○											継続	緑区	19人	対象:18歳～64歳の方 実施日:6月27日(火) 場所:緑区保健センター 内容:「お腹まわりの筋肉を使うエクササイズ」「便通を良くするバランスの良い食事」「いつまでも若く保つためのお口の健康について」	食物繊維を多く含む食品を使ったおかずの試食やレシピを提供することで、便通をよくする食事や食品選択について伝えることができた。また、アンケート結果より、教室の満足度が高く食生活について考える良い機会になっている。			

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。



Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
緑区 保健センター	家族みんなでいただきマウス教室	○	◎	○			○						新規	緑区	20名	対象:区内の1~1歳6か月までの児とその親 実施日:9月6日(水) 内容:家族の食事から取り分けて、簡単に作れる離乳食のコツと美味しく食事をつるための、お口のケアポイントを学ぶ教室	アンケート結果より、大人の食事から簡単に取り分けて離乳食が作れることがわかった。				
岩槻区 保健センター	達人に学ぶおやこシリーズ	○	◎	○	○	◎		○		○	○		継続	岩槻区	①27名 ②16名	対象:①小学1~3年生の親子 ②小学生の親子 実施日:①9月10日②10月29日 場所:保健センター 内容:①「かけっこの達人~楽しく走るコツ教えます!」 走るコツと練習についての実技、運動と食事についての講話、家族で試食 ②「ごはんの達人~岩槻産のお米でおにぎりランチ~」 地元農家の方からお米についての講話、岩槻産のお米を使って親子で楽しく調理実習	アンケート結果より、参加者の満足度は高く、今後の生活に生かせると思うと感じた人が多かった。 ①については、食事や間食の内容と量について啓発することができた。 ②については、さいたま市のお米や作物への理解を深め、食と健康づくりについての意識付けをすることが出来た。来年度はテーマと内容を変え実施する。				
岩槻区 保健センター	やまぶきまつり	◎	○	○			○	○	○	○	○		継続	岩槻区	207名 (ブース来場者)	対象:やまぶきまつり来場者 実施日:10月15日 場所:岩槻文化公園 内容:区民祭りで野菜摂取量の啓発と食塩摂取量についてのパンフレットを配布	野菜摂取・食塩量についてのフードモデル展示やパンフレットを用いて説明することで、来場者が日頃の食習慣について振り返る機会となったと考えられる。				
岩槻区 保健センター	健康月間における普及啓発掲示	◎	○	○	○	◎		○	○	○	○		継続	岩槻区	—	対象:岩槻区役所来所者 実施日:①平成29年6月 ②平成29年9月 ③平成29年10月 場所:岩槻区役所内や保健センター掲示スペース 内容:①地産地消について ②野菜の摂取量について ③朝食摂取について 啓発展示コーナーを設置し、来所者向けにポスターの掲示、パンフレットの配布を実施	市民が利用する区役所内や、目に留まりやすい掲示スペースに情報を置くことで、多くの市民へ食育や健康づくりへの知識の普及啓発が出来た。				
健康教育課	さいたま市学校給食週間記念行事						○	○	○	○	○		継続	その他	292人	対象:保護者、教職員、一般市民 実施日:平成30年1月23日 場所:埼玉会館 内容:講演会、展示等	講演会や児童生徒の作成したポスター、学校給食献立のレプリカの展示を行い、子どもへの食育の大切さや学校給食の担う役割などについて理解を深められた。 降雪のため、申込者数(446名)より参加者数が少なくなりました。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
健康教育課	研究委嘱事業						◎	○					継続	複数区	—	対象:市立小・中・特別支援学校教職員 場所:桜区、緑区、南区、中央区 中島小学校(28.29年度) 尾間木中学校(28.29年度) 向小学校(29.30.31年度) 与野西中学校(29.30.31年度) 内容:市立小・中学校の希望による委嘱校が食育の推進に取り組み、2または3年目に研究発表を実施	研究発表会を行い研究の成果を共有することにより、市立学校における食育について理解を深め、食育の推進を図ることができた。				
健康教育課	さいたま市学校給食衛生管理講習会			○				○					継続	その他	565人	対象:市立小・中・特別支援学校教職員 調理業務委託業者職員 実施日:平成29年8月18日 場所:埼玉会館 内容:講演会	学校給食における衛生管理の向上を図ることができた。 対象者が、管理職、学校栄養士、調理従事者と職種が様々であったり、受講者が毎年ほぼ同じであったりするため、講演内容について考慮する必要がある。				
健康教育課	地場産物の活用推進									○	○		継続	複数区	—	①彩の国ふるさと学校給食月間の実施 対象:児童生徒 実施日:11月 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:埼玉県産、さいたま市産の食材の使用 ②地元生産者との情報交換会 対象:緑区、見沼区、岩槻区の 学校栄養士 実施日:7月～8月(各区ごとに実施) 場所:市立小・中学校 内容:地元生産者と地場産物の給食への活用について情報交換を市内10区を3つに分け、3か年計画で実施	①平成29年度の地場産物活用率は、27.5%であった。前年度より1.6%減少した。 ②地元生産者と学校栄養士が、生産状況や給食へ地場産物を使用するための条件等を話し合い、それぞれの立場を理解することができた。少しずつ活用につながってはいるが、活用拡大のためには、今後も話し合いを継続していく必要がある。				
健康教育課	生活習慣病予防学校検診	○						○					継続	全区	118名	対象:腹囲身長比0.5かつ肥満度35%以上の小1～小4、中1 実施日:10～11月(各医師会ごとに実施) 内容:医師、栄養士による個別指導、集団指導、学校における継続指導	小1から小4になるまでの期間で肥満の児童数の増加が見られることから、低学年の指導の充実を図っている。				
健康教育課	地元シェフによる学校給食の実施		○					○					継続	その他	20校	対象:児童生徒、教職員 実施日:給食実施日 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:地元のシェフと連携を図り、学校給食を実施	児童生徒の食への関心が高まった。 より多くの学校が実施できるよう、シェフと連携を図る。				
健康教育課	学校教育ファーム							○					継続	全区	小103校 中57校 特支2校	対象:児童生徒、教職員 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:農業体験活動	教育計画へ位置づけ、市立全小・中・特別支援学校で実施できた。 農業体験活動を通して、食物や生産者の方への感謝の気持ちを育むことができた。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
生涯学習振興課	「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーン	○					○						継続	全区	-	<p>○さいたま市教育委員会の取組 ・平成28年度～30年度の3年間で新キャンペーンを実施した。 ・全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査等の結果を踏まえ、朝食の摂取率増加のために、朝食を焦点化した啓発ポスター、リーフレット、保護者会での啓発資料を作成し、家庭への普及啓発を図った。 ・啓発ポスター、啓発リーフレット配付時に、生活習慣向上強化期間【4月10日(月)～4月19日(金)】を設け、啓発リーフレットの活用を図った。 ・養護教諭研修会や市PTA協議会理事会において、本事業についての説明を行った。</p> <p>○学校の取組 ・キャンペーンの重点項目及び児童生徒の生活習慣の実態を踏まえ、組織的、計画的に家庭への呼び掛け及び児童生徒への意識付けに取り組んだ。 ・保護者会や地域住民との交流機会を通し、児童生徒の生活習慣向上に向けた学校の取組を説明するなど、家庭や地域と連携・協力して取り組んだ。</p>	<p>○平成29年度さいたま市学習状況調査(平成30年1月実施)の結果によると、朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は小学5年生は、85.9%で昨年度より1.2ポイント、中学2年生は、81.1%で昨年度より0.5ポイント上昇した。これらの結果を踏まえ、「朝食の摂取率増加」に向け、保護者への啓発活動をより一層充実させることが課題である。</p>				
生涯学習総合センター	(各公民館事業)														3 公民館の食育取組状況(P35～41)を参照						
健康増進課	食育全般の推進	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	継続	その他	<p>①3回開催(5、8、1月) ②3回開催(5、8、1月) ⑤大学生31人</p> <p>①食育推進協議会 ②食育推進担当者会議 ③食育なびによる情報発信 ④第2次さいたま市食育推進計画の普及・啓発 ・「0歳から家庭で実践できる食育」をテーマとしたクリアファイルを、保健センターの離乳食教室等で市民へ配布。 ・さいたま市の食育取組状況を冊子にまとめ、関係団体、関係部局等へ配布。 ⑤食育を実践しようプロジェクト 市内の大学生による食育活動を支援した。児童センター、放課後児童クラブ、大学等において食育活動を実践した。</p>	<p>第3次さいたま市食育推進計画を策定した。</p> <p>食育に関する情報発信や広報活動、食育を推進する人材の育成・支援、食育推進のためのネットワークの強化により、食育を推進した。</p> <p>取組の継続、さらなる強化が必要。</p>					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成29年度食育取組状況

平成30年3月現在

Plan		Do										Check									
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成29年度									
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進			
健康増進課	5つの「食べる」の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	—	①食育月間(6月) ・ポスター作成・配布(保育施設、放課後児童クラブ、教育機関、公共施設等) ・ウエットティッシュ配布(保健センター等) ・食育ナビ、市ホームページ、市報による普及啓発 ②食育の日(毎月19日) 食育ナビ等による普及啓発 ③食育を実践しようプロジェクト(再掲) 放課後児童クラブにおいて、食文化をテーマとした食育活動を実施した。	平成29年度の重点目標「食文化や地の物を伝え合い食べる」を啓発した。			
健康増進課	重点プロジェクト(共食、朝食、協働)の推進	◎	◎			◎	○	○	○	○	○	○	継続	その他	—	①共食 食育ナビによる啓発 ②朝食 ・「毎年10月は朝ごはんを食べよう強化月間」リーフレット作成・配布(保育施設、放課後児童クラブ、教育機関、公共施設等) ・食育ナビ、市ホームページ、市報による普及啓発 ③協働 食育を実践しようプロジェクト(再掲)	共食、朝食の重要性を啓発した。 取組の継続、さらなる強化が必要。				
健康増進課	各ライフステージにおける食育の推進	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	継続	その他	—	①「さいたま市乳幼児期における食育取組事例集」作成・配布(幼稚園、保育施設等) ②「さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け」リーフレット作成・配布(幼稚園、保育施設等) ③食育を実践しようプロジェクト(再掲)	各ライフステージの課題や目指す姿に合わせた食育を実施した。 成人期、壮年期、高齢期を対象とした取組の充実が課題。				

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。